

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

#### 主任教授・男性

##### \*\*思う

- ・「時代の流れ」がもう動いているから(男女共同参画も進むと思われる)。
- ・いろいろなスタイルの働き方ができるようになることで、女性が働きやすくなると思う
- ・いろいろなタスクシフトで、効率性を高められると信じますので
- ・このことは、どのような形であれ、働き方改革が進めば、実現するでしょう。しかし、真の意味の男女共同参画は、難しいです。
- ・しわ寄せがどこかに来ることは不可避に感じておりますが、男性の育休などは進むと思います。
- ・それが改革だから。なければ意味がない。
- ・それが目的の一つだと思うから
- ・フリーな時間が増える
- ・より、共同意識が進む。
- ・ライフイベントと仕事を両立できる。
- ・意識が向上するから
- ・意識が変われば多少はかわるかも。
- ・意識変化の後押しにはなる
- ・一人当たりの職場時間は減る。
- ・家事分担が上手く行くようになるかもしれない
- ・家庭がある場合は良いと思う
- ・家庭で男性が家事をやる時間が増え、職場で女性へのタスクのシェアが進む。
- ・外科系は少し女性が選びやすくなる可能性がある
- ・希望も込めてだが、男性からも働き方改革が進まない、更なる助成の参画は難しいと思う。
- ・共同参画は進むかもしれないが、過酷な勤務での男性依存の状況は変わらないと思う。
- ・勤務に余裕が生まれることを期待する
- ・勤務時間が明確になり家事などの棲み分けが可能となる可能性がある。
- ・勤務時間の制限により、子どもをもつ女性が働きやすくなるため。
- ・勤務時間を適性にする権利が、それぞれに生じることで、働きやすくなる
- ・研修医の体制を整えることで、その人たちの年齢があがっていくことで、文化として根付くのではないかな。
- ・個々人と社会全体と分けて考えると社会全体として改善する
- ・効率を求めるようになり、家庭を第一に考えるマインドへ変化する。
- ・今より家族との時間が増えるので。
- ・産休、育休取得を男女で推進しているため。
- ・仕事の男女差が減少すると予想されるため。
- ・仕事への意識が変化してきていると思います。
- ・仕事を分担するようになるから
- ・子育ての世代の女性が働きやすくなる
- ・子育て世代の女性が勤務時間などで機械的に弾かれることは減るだろう
- ・子育て世代の女性が働きやすくなり、子育て世代の男性が育児をしやすくなるため
- ・時間外に重要な会議などを入れないようになるため
- ・時代の変化
- ・自由な時間を家事等に割り振ることができるから
- ・若い人は家庭を大切にしているので
- ・若手は女性も働きやすくなる
- ・若手を中心とした意識の変容
- ・従来は女性が妊娠、出産、育児により外科領域では男性との差があり選択しづらかったのが、差が少なくなるから。
- ・女性がより仕事をしなければ成り立たないと思うから
- ・女性が参画する領域が増えると思うから。
- ・女性が働きやすくなるのではないのでしょうか。
- ・女性が働きやすくなるのは事実だと思います
- ・女性が働く時間が増える。
- ・女性が要領よく働ける機会が増えるため。
- ・女性に参画してもらわないと(政府の言うところの)働き方改革は進まない

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・女性の活用が必要
- ・女性の社会進出についての議論が予想される
- ・女性の職場復帰を促進する必要があるため。
- ・女性も男性と同様の勤務が必須となるから
- ・女性医師が勤務を継続する環境が整ってきたため
- ・女性医師はより働きやすくなるだろう
- ・少なくとも男女共同参画に対する意識は高まると思われる
- ・進まなければならないと思うし、労働時間が減ることで、家庭にコミットする時間が増えると思うから。
- ・進めないと、働き方改革も進まない。
- ・人手がいるから
- ・世の中の意識がその方向で変るため
- ・性別ではなく職務として同等であるため
- ・整形外科額講座では、多数の女性医師に対して優先的にワークライフバランスを考慮したプログラムを実施しているから
- ・宣伝効果により取り組みも含めて増えている
- ・全体の勤務時間が短くなり、女性に不利なことが減る
- ・大義名分にして進めます
- ・短時間の作業なら兼業女性もできるから。
- ・男女ともに仕事量が減ることで、気兼ねなく女性が社会進出しやすくなる
- ・男性が育児などに費やす時間が増えると思われるから。
- ・男性が多少家事を手伝うだろうから。
- ・男性だけでは足りないから
- ・男性の家事分担が増えて、女性が働きやすくなると思います。
- ・男性の家事分担が増えることにより、女性の社会参加が増える
- ・男性の家事分担が増えると想定される。
- ・男性の勤務形態・時間が女性に近似してくる
- ・男性の労働時間が減らされると、必然的に女性の力が必要となり、その結果、女性の労働環境の改善がより求められる。
- ・男性も家庭で過ごす時間が増えるから。
- ・男性医師の帰宅を促し、男性医師の収入が減るので、夫婦が医師であれば女性医師が働くモチベーションになるから。
- ・男性医師も勤務時間が減るため
- ・男性職員の帰宅促進により、家事従事時間を取ることができる可能性がある。
- ・長時間の仕事が制限されることで女性も働きやすくなるため
- ・働き手が少なくなり男女差はなくなると思うから
- ・働き手が多く必要。休みが取りやすくなる。
- ・働き方を見直す機会になるので。
- ・同居家族の協力なしに男女共同参画を進めることは不可能であるため、ひとつのきっかけとなり得る。
- ・病院への拘束時間が減ることで育児家庭の医師が勤務しやすくなると考えられるから。
- ・無茶な働き方を強要できなくなるので。
- ・理念の浸透。
- ・労働時間が減る分、労働をシェアする必要があるから
- ・労働集約性の上昇

#### \*\*思わない

- ・働き方改革と男女共同参画は関係がない。
- ・アプローチの方向性が間違っている
- ・かえってバランスが崩れる可能性が高い
- ・ジェンダー平等の考えが浸透しなければ男女共同参画は進まないと思います。
- ・しっかりしたシミュレーションを科学的に実施したのか根拠に乏しい。
- ・そもそもそこにある問題は一部だから。
- ・そもそも改革なのか？
- ・それとは別の問題と考えます。
- ・ちがう象限の話である。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・どこかにしわ寄せがくるため
- ・なぜ働き方改革が進むと、男女共同参画が進むのかがまったく理解できない。
- ・パートナーの仕事量が減らなければ、育児の負担は減らないから
- ・むしろ女性がより強引に働かなくなり、その分、働かないこととして働かざるを得ない男性医師が増える。
- ・やっぱり女性医師は優遇されていると思う
- ・医師側の意見を全く反映していない改革だから
- ・医療においては、働き方改革は見かけ上は進んでも、実際はブラックで働かざるを得ない。
- ・育児支援は当地では名ばかりです。(私の科はちがいますが)
- ・一般的に女性の場合、仕事より家庭を優先する割合が著しく大きいから。
- ・欧米を見ても働き方改革と男女共同参画は無関係。別々の問題だと考えます。
- ・家庭と仕事を両立させている女性医師は現状でも可能な限りで勤務してくれており、それ以上に勤務へ時間を割り振る余裕はないと思われるため
- ・改革に基づかない若い世代の意識によって共同参画が進むと思われる
- ・改革の内容が、男女共同参画を目的とした改革とは思えない。
- ・外科系医師が増えるとは思えない。
- ・確かに女性が参加する機会は増えると思うが、それは結果論である。働き方改革と男女共同参画は基本は別問題である。医療の面では看護師に関して女性が多いのでタスクシフトをすると結果的に女性が増えるというだけである。
- ・関係があるとは思えない
- ・既に役割分担が決まっている。
- ・逆差別が生じている。
- ・業務が増えているが、ヒト、時間、金が減っているため
- ・勤務時間が減少する人がいれば、増加する人はいるから。
- ・研修医、専攻医などが時間通りでしか勤務しないと上級医に負担がかかり家事・育児についての参加が難しくなる。
- ・現状で、女性だから仕事をしないことはない。
- ・公立病院では結局、人員規定(雇用規定)が厳しい、融通効かない。
- ・根本的な医師不足、偏在が改善できていないため
- ・根本的に体制は変わらないと思うから
- ・残業が増えるのみ、そして働き方改革は地方では不可能
- ・仕事内容の振り分けに違いが生じるため
- ・仕事量が変わらないのに、見かけの労働時間を減らすのみなので。
- ・子育て中の女性医師の働き方自体は変わらない。勤務時間制限がなされることで、男性医師の家庭における男女共同参画は進むのかもしれない。
- ・時間だけの問題ではなく、社会全体の意識などが変わらなければすまない。楽することだけ覚えるだけに向かう。
- ・社会支援体制が足りないから。
- ・就業の体系が固定化してしまうため
- ・出産や育児で時間がとられるため
- ・女性が参画できる体制が不備であるので
- ・女性が少ない診療科のため。
- ・女性のやる気次第である。
- ・女性の意識が変わらないと、結局残った業務はできる医師(主に男性)がするしかない。
- ・女性の参画が増えると、定員増がない限り、男性への負担が増えるため。
- ・女性の参画を促進する別の取り組みが必要だと考える。
- ・女性医師の「本音」を明確にしないから(したがないから)
- ・女性医師の現場復帰が進むとは到底思えない
- ・診療の負担がかえって増えることが予測されるため。
- ・進む理由を思いつかない。
- ・人の価値観は変わらないから
- ・人員が増えないと大学病院勤務医の労働条件は悪くなり、大学離れが進むため、女性医師が増えるようになるとは思えない。
- ・性別に関係なく仕事があるので
- ・責任ある立場になってもらうことが嫌いな女性もまだ多い
- ・総労働量が不変で総労働時間が減少すれば、失業対策にはプラスですが、男女共同参画については未知数です。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 大学基準協会や分野別など無駄な仕事が増えているため、進むとは思えない。
- ・ 単に若い医師の休みが増えるだけで、意識が変わらないと進まない。
- ・ 男女の社会的な役割の概念は変わっていないため
- ・ 男女共同参画が可能な社会体制が無ければ働き方改革による推進は起こらないと考えるため。
- ・ 男女共同参画とは別だと思えます
- ・ 男女共同参画と働き方改革は、似て非なるものであると考えます
- ・ 男女共同参画の推進力は働き方改革ではないだろう。
- ・ 男女共同参画は、働き方改革とは関連なく、それを阻んでいるのはより文化的な側面が強いと考えるから
- ・ 男女共同参画は別次元の問題である。
- ・ 男女共同参画以前の問題が解決されていない(特に地方において)
- ・ 男性が女性を受け入れる態勢、女性が参画しようとする意識(意欲)が変わらなければ進むとは思えない。
- ・ 男性の働き方を変えないとダメです。
- ・ 男性の負担が増える
- ・ 男性医師の宿日直、時間外業務の割合が増加するため、より多くの人員が必要となる。
- ・ 働きたいヒトの意欲を下げるだけで全く関係がない
- ・ 働き方が原因ではなく、育児や介護は女性が負担するといった無意識にある認識が社会全体にまだ広がっているため。例えば、保育園や学校から子供について連絡したい時にまず父親に連絡するといった傾向はない。母親が優先して呼ばれる社会では働き方のみを変えても難しいと思われる。
- ・ 働き方とは切り離して考えるべき
- ・ 働き方改革と男女共同参画とは無関係である。
- ・ 働き方改革と男女共同参画はあまり関係ない
- ・ 働き方改革の output が不明
- ・ 働き方改革の枠組みが現場のことを無視しているから。
- ・ 働き方改革は進まないと思うので
- ・ 日本での男女共同参画は働き方改革によってほとんど影響がない。むしろ個々の考え、姿勢が影響するため。
- ・ 妊娠出産育児などで他の方の勤務がきつくなると思います。
- ・ 病院はさらに余裕がなくなって、出産育児をする女性医師は敬遠されかねない
- ・ 別問題だと思う。
- ・ 本質は働き方にあるのではないと思うから。業務の構造にあると考えている。
- ・ 予測できないしわからない
- ・ 両者は因果関係があるのではなく、独立事象であるため
- ・ 労働環境はより、厳しくなると予想される
- ・ 労働時間と男女共同参加は本質が全く別次元のもの。

#### \*\*わからない

- ・ いまだ効果は未知数
- ・ ケースバイケースだと思う
- ・ それ以外の問題が大きく、働き方改革と男女共同参画が繋がらない
- ・ 男女の違いを認め合って進める中、様々な要素が入ってくるため。
- ・ どこかにひずみが来ると思う。
- ・ 意識改革がより重要と考えるため
- ・ 医師業務を減らさないと、男女参画はうまくいかない
- ・ 休む医師の業務を、他の医師が担う必要があるため。
- ・ 業務負担の軽減で生じた時間が男性の家事参加につながるとは限らないと推察します。
- ・ 具体的な方針が見えてこないため。
- ・ 仕事の効率化次第だと思う
- ・ 子育てを二人でする場合、二人共が緊急等に対応できないので、どちらも参加できない状況を改善しなければならないと思います。しかし、女性医師が割合的に増加しており、各科で働き方改革をしなければ将来医師の数は増えても、実働が減ることになると思います。
- ・ 時間の問題ではないから。
- ・ 時間より意識の問題なので単に労働時間を減らしても影響は読めないところが大きいので。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・自分の勤務場所では男女の別はあまり勤務に影響しないから。
- ・自分の周囲には、そもそも女性労働者が少ない。
- ・自分自身には影響が今のところないため。
- ・実際に見てみないと分からないと思う
- ・社会や家庭にはジェンダーとしての各役割があり、すべて共同は無理である
- ・所属科によって男女医師数が違うのでわかりません。
- ・女性にも働きやすくなる
- ・女性の仕事に対する意識次第(depending on)。
- ・女性の働く環境が変わらないと思う。また賃金の支給がむつかしいかもしれない
- ・女性自身の考え方にも左右されるため。
- ・少なくとも私達の現場では働き方改革と男女参画の議論はまったくリンクしていない
- ・先のことはわからない
- ・組織、上長次第だと思う
- ・組織の執行部がどのように考えるか、が大きいと思う。
- ・男女を区別せずに一律に働き方を改革しても現状が変わると考えられない。
- ・男女共同参画と働き方改革が常に連動するとは思えない。
- ・男女共同参画と働き方改革との関連は低いと考えられるため。
- ・男女共同参画は働き方改革とはまた別の問題ではないかと思う。
- ・男女共同参画は別の問題だと思う。
- ・男性の働き方に制限が加わることはある程度大事だが、意識改革の方がより重要であるため
- ・働き手として女性の果たす(果たさないといけない)役割は増えるがそれを共同参画といえるかは疑問。
- ・働き方改革が男女共同参画に影響をあたえるか不明なため
- ・働き方改革が労働に関して本質的な議論から乖離しているから
- ・働き方改革で女性医師の働き方がどのように変わるのかわからない。
- ・働き方改革とは関係ないのでは
- ・働き方改革と男女共同参画は、目的が異なると思う
- ・働き方改革と男女共同参画は直接的な関係はない
- ・働き方改革によって自分の職場がどのように変わっていくのかが未だに不透明なため
- ・働き方改革に加えて個人の意識の変容が必要。
- ・働き方改革の影響を感じないので
- ・働く女性の意識に依存すると思うから。
- ・日本の風土そのものが変わらなければならぬ
- ・必要な業務量自体が変わらないと、仕事する場所が変わるだけということになってしまうため
- ・不確定要因が多い
- ・別問題
- ・未来は予測できないから。
- ・要因が多いため
- ・両者の関係が不明

### 主任教授・女性

#### \*\*思う

- ・タスクシフトは男女同様に進むと考えられるため、女性が仕事を継続するチャンスは増える
- ・育児参加の男性医師が増えればよいが、現在はそれより人員がおらず仕事が回らない
- ・固定的役割分担意識(特に男性)の意識改革につながると思うから
- ・時間ができるから
- ・女性が常勤で働きやすくなる可能性がある。
- ・男性が意味のない居残りをやめて、帰宅するから
- ・男性が家事に参加できるから。
- ・男性が家事をする時間が取れるため
- ・男性が家事育児に充てる時間が増える(当人の意識改革が伴っていれば)
- ・男性の育児・家事の参加時間ができる

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 男性の働きが減ることによる平坦化
- ・ 男性の労働時間が減る
- ・ 男性も家事や子育てに参加できるので、夫婦でシェアできる
- ・ 男性医師の働き過ぎが減り、家族のために過ごす時間が過ごすことで、女性の家事負担が軽減される。
- ・ 分業をする、分業を担当する人を雇用する、ことが実現すれば、性別に関わらず就業しキャリアを築くことが可能になると思う。

#### \*\*思わない

- ・ そのような働きかけをしていない
- ・ まずは医師の偏在対策が先だと思います
- ・ やるべきことは変わらないから
- ・ 育児・介護が女性から男性にシフトしない限り、結局は、男性医師の負担がふえるのみ
- ・ 形だけの働き方改革が機能すると思えない
- ・ 固定的役割分担の意識改革が必要
- ・ 常勤、フルタイムでないとこなせないと思われる。日本ではまだ必然的に女性が家事をこなさないといけない風習が根強いから
- ・ 性別役割分担の意識は、すぐには変わらないから
- ・ 全体的なマンパワーが変わらない限り改善はみこめない

#### \*\*わからない

- ・ 意識の要素が大きいから
- ・ 男女に限らず意識が高いか低いかで差が出るだろう
- ・ 男女共同参画は働き方改革だけでは変わらないと思いますが、その要因には種々あるため
- ・ 男性の意識によると思う。
- ・ 働き方改革と男女共同参画が直接結びつくのかどうか不明

### 教授(主任以外)・男性

#### \*\*思う

- ・ すすむと思う
- ・ そうしなければならない
- ・ そうでないと業務が進まなくなる
- ・ もともとの個人の考え方によるところが大きいと考えるが、きっかけにはなると思う。
- ・ よい意識改革の機会になっている。
- ・ 医療職は医療職、研究職は研究職と専任の形態に近づくので、兼務する人が減り、雇用の機会が増えるから。
- ・ 家事を含めた家庭の事に関わる時間が男女ともに増えるから
- ・ 家庭での時間を増やすことができる可能性があるため
- ・ 逆に差別化が進むため
- ・ 業務時間が減ることで家庭内での仕事にも関与できる
- ・ 好影響があると推測されるので。
- ・ 仕事とプライベートの分離がきちんとできれば進むと思う。
- ・ 時間はかかるだろうが、家事育児に男性が使う時間が長くなり、その分女性の自由な時間が増えると思われるので。
- ・ 自宅で家族と過ごす時間が増えるから。
- ・ 自分の動きが自由になるから
- ・ 実際に現場では進んでいるから。
- ・ 若い女性にとっては働きやすくなると思います
- ・ 女性が 200%労働者でなくとも母や妻である時間をある程度キープできるため、参画しやすくなると思われるが、まだまだ時間がかかるであろう。
- ・ 女性が活躍できる環境を作ることは理想ではあります。
- ・ 女性が参加する業務が増える可能性があるから
- ・ 女性が参画しやすくなると思う
- ・ 女性が仕事をしやすくなる
- ・ 女性にとって、働く選択肢が増えると思う
- ・ 女性の活躍がないと、職場は回らない

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・女性の活躍の場は増えると思う
- ・女性の勤務者を積極的に取り入れなければ、間違いなく人手不足におちいると思われるから。
- ・女性の参画が進むと思われる。
- ・女性医師の必要性が高まる
- ・女性医師は働きやすくなると思います。
- ・少しずつ改善
- ・進めないといけないと思いますので「思う」というより「そうなってほしい」と願いを込めまして
- ・短時間勤務の女医や医療スタッフが増えると思うので
- ・男女とも自由な時間が増えると思うので。
- ・男女の仕事量のバランスが改善する
- ・男性がずるずる居残るのが減ると女性が働きやすくなると思うから
- ・男性がより育児に参加できることが期待できる
- ・男性の育児休暇なども平等にとれるので意識は高まると思う
- ・男性の家事参加
- ・男性の長期労働が解消されないと、女性が十分に働けないと思います
- ・男性も休暇を取りやすくなるため
- ・男性医師も育児で早く帰宅できるようになる。
- ・地位向上地位向上
- ・働きやすい環境になる可能性が高いため
- ・働き方改革での労働時間に関する認識が男女平等だから。
- ・無駄な移動時間の削減

#### \*\*思わない

- ・そちらのベクトルに働きそうにない
- ・その目標ではない
- ・そもそも女性が参入していない(こない)。
- ・そもそも別物という印象を持っている。
- ・どうしても母親でなければできないことも多々あり、働き方改革だけで男女共同参画を改善するとは思えません。
- ・まだまだ克服すべき課題は多いと思う。
- ・医師の業務に現在の働き方改革の方針は向いていない
- ・医療という業務は誰かが時間外の労働を担わないと成立しない。様々な事情で時間外労働ができない人がいることは仕方ないが、その仕事ができる人に負担が集中して、大変になる→辞めてしまう→残された人が大変になるという悪循環が止まらない。全員が応分な負担を担えれば良いがそれができない以上根本的に解決できない。
- ・外科系に関しては、女性医師は少ないので共同参画は考えにくい
- ・関係ないと思います。
- ・個人の意識や責任感が変わらなければ参画は進まないと思います。
- ・個人の状況によって業務遂行状況も異なる。以前からであり、そのためのサポート周囲がしている。これは性別に関わることではない。
- ・個人の多様化にあわない、一律的な改革であるため。
- ・仕事の内容にもよるが、働き方改革によって診療科のグロスでの仕事時間が制限されると、診療科としては、産休、育児休暇などで減少する仕事を極力減らしたいと考えるため、その権利を行使することが多い女性よりは、男性を増やしたい、という意識が働くように思われる。
- ・仕事を家に持って帰ることになるため
- ・仕事量が変わらないので変化する可能性は低い
- ・社会構造に変化がなさそう
- ・社会的に両者を同一次元で考えていないから。
- ・出産・育児など女性特有の役割部分をきちんと評価できていない
- ・女の人はどこか一線を引いているところがある。
- ・女医達はすでに各家庭で可能な時間内で働いているので、これ以上労働時間が増えるとは思えない。
- ・女性は当直免除が優先される
- ・少なくとも今回求められている働き方改革の規制と男女共同参画は、別次元の問題だと思われるから。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 消化器外科の仕事はやはり過酷であり、他職種へのタスクシフトと報酬アップが進まないかぎり、男女共同参画は難しいと思います。
- ・ 上記の 37 のコメントの様に仕事の総量は減らない
- ・ 制度上の問題が解決されることが前提
- ・ 責任を伴う業務を望む女性が未だ少ない気がします。
- ・ 男女共同参画と働き方改革は、全く別物
- ・ 男女共同参画はそれぞれの考え方によるものであり、働き方改革という半ば強制的なシステム変更をしたゆえに成し得るというものではないでしょう。
- ・ 男性医師が育休を取得できるとは思わない。
- ・ 男性医師の意識変革がなければ難しいと思う。
- ・ 直接的には、上記 2 者は関係ないから。
- ・ 働かない女医が増えるだけだと思う
- ・ 働かない人がさらに働かなくなるだけ。
- ・ 働き方とは別の領域
- ・ 働き方改革で、女性の擁護はますます進むだろう。それはとても良いことだと思う。しかし、仕事は減らない。それをやりくりするために男性はさらに微妙な働き方を強いられることになる。働き方改革は、仕事量が減らないのにそれを強行するところに大きな過ちがある。もし、働き方改革を進めるのであれば、同時に医師の仕事量を減らす必要がある。
- ・ 働き方改革と男女共同改革は別次元の課題
- ・ 働き方改革と男女共同参画はリンクしていないので
- ・ 働き方改革のために自己研鑽として時間外にはじき出された教育や研究にかかる業務を含め、結局は自宅に持ち帰る仕事量が増えただけ。結果として一層、伴侶に負担をかけることになっている。
- ・ 働き方改革のみでは大きくは変わらないように思います。
- ・ 病院内業務の根本的な改革も必要です。
- ・ 別の要因が規定しているものなので、無関係。
- ・ 変わらないと思います。
- ・ 無関係でしょう
- ・ 労働時間の減った男性が副業するから

#### \*\*わからない

- ・ 2つの事案は違う問題。
- ・ それぞれの接点が不明瞭なため
- ・ まだこれからのことだから
- ・ まだ働き方改革はほとんど進んでいない。先は全く見えないため、予測困難。
- ・ もともと女性が多い職場である
- ・ 医師の生活を守るための改革であるが、一方で収入が守れるか、疑問。
- ・ 改革が形式的なものになれば変わらないと思う
- ・ 改革の効果が不明
- ・ 管理職としては配慮する
- ・ 関与する因子が多すぎる
- ・ 業務内容からは男女共同参画への影響があるのか、よくわからない
- ・ 結婚した女性は当然の様に当直減、勤務時間内で帰宅するので、これは誰がこなすのか??
- ・ 効果的には変わらない
- ・ 国や各施設のやる気次第と思う。
- ・ 根本的に別の問題だと思います。
- ・ 女医さんが辞めてしまう
- ・ 女性がどこまで仕事に責任感を持って取り組むかによる。
- ・ 女性が少なくわからない
- ・ 女性が心配なく働ける十分な支援(保育所の充実、産休・育休に対する(非常時としてではなく「常時」起きるものと捉えた)同僚に無理を強いないような職場体制など)が整っていないと難しいように思う。
- ・ 女性の、考え方次第だと思います
- ・ 女性医師の生活に与える影響が推測しにくい



### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 女性医師の役割分担がどのようになるかが見通せない。
- ・ 詳細が不明だから。
- ・ 人によって条件が全く異なるため
- ・ 全体的には徐々に進むと思うが、こと育児に関しては未だに女性が圧倒的に時間を費やしている。文化的な背景もあり、世の中全体の考え方が変わらなければならない。
- ・ 男女共同参画を推進するには、社会構造自体を変化させていく必要がある。
- ・ 定時に業務を終了するという点で魅力を感じて女性が増える可能性はあると思いますが、バックアップ要員として必要とされる場合もあり、女性に優しい環境になるとは思えない。
- ・ 働き方改革にかかわらずやらなければいけないことは変わらないため、個々の仕事に対する考え方は個人個人による。
- ・ 働き方改革によって、業務の質を下げずに、労働量のみが減少/分担できるとは現状では考えられない
- ・ 働き方改革の問題ではない
- ・ 表面上の勤務時間は減らされるが、拘束時間が増えたりして、男女共同参画は 進まない。
- ・ 夫婦間の問題が大きいのではないかと思う
- ・ 別次元の問題
- ・ 変化を感じない

#### 教授(主任以外)・女性

##### \*\*思う

- ・ 仕事に強制的に関わる時間が減ることによって、家事育児介護等を家族間で分担しやすくなると思うから。
- ・ 女性が、長時間働けないという理由で要職につけないということがなくなる。
- ・ 女性の会議などへの登用が増えている
- ・ 職場や家庭の仕事を男女問わず行うことになり、平等化が進みそうな気がする
- ・ 男女両方とも仕事と生きがいがある社会になることを期待を込めて
- ・ 男性が家庭にかかる時間が増えると思う。
- ・ 男性が時間外に働かないことにより、昼間に女性が登用されやすくなる
- ・ 男性の協力が得られる。

##### \*\*思わない

- ・ それだけが理由ではないから
- ・ 家庭で女性に求められている役割が大きい
- ・ 業務内容が多い
- ・ 今の働き方改革が主に時間に関わっているだけだから
- ・ 参画には気持ちのゆとりも必要と考えます。生活に何らかの課題を抱えている間は気持ちにゆとりがないため、働き方の変化があっても容易に参画する変化には至らないというのが実感です。
- ・ 自由度が少ない改革だから
- ・ 所属組織や社会は、男時間で動いているから、勤務時間内に会議などが終わらない。夜遅くに会議があれば女性は厳しい。
- ・ 女性の負担があまり減らないので
- ・ 上記の理由により、C2や宿日直許可など、実質の働き方は変わらないと思うから
- ・ 多様な働き方を認める文化の醸成が必要である。
- ・ 働き方改革は主に長時間労働の解決であり、男性自身の考え方を変えるわけではないため。
- ・ 臨床上無理

##### \*\*わからない

- ・ やる人はやるし、やらない人はやらない。余った時間を育児、家事という仕事に回すかどうかは個人の問題
- ・ 職場の理解度に依存すると思われるため。
- ・ 男性の管理職の意識改革や女性役員・管理職を実際に増やせるかどうか、政治や社会の本気度が不明だから。
- ・ 当面は、医師は常勤病院での勤務時間が減り、給与が経るため、外勤数を増やさざるを得ない、という構図になると思います。そのような状況で、男女共同参画が増加するかわかりません。
- ・ 働き方改革により男女共同参画が進む可能性はあると思うが実際にそうなるかはわからない

#### 准教授・男性

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

#### \*\*思う

- ・うまく導入ができれば男女共同参画は進むと思います。
- ・さまざまな環境の人が参画できるようになる
- ・その方がいいと思います。
- ・それぞれが、意識をし始めているため
- ・マンパワーが必要になる。
- ・みんなが働きやすい環境になっていることを実感している。
- ・やりやすい環境になるので
- ・医師の仕事の絶対量を減らせることができれば、男女共同参画は進むと信じています。
- ・育児などの負担の比較的大きい女性が働きやすくなるはず
- ・家事を分担できる男性が増加することで、女性が働く環境が改善するため。
- ・家庭でパートナーのしていることを代わりにできるが増えるから
- ・家庭で過ごす時間が増えるため。不規則な勤務による寝不足・体調不良が解消されるため。
- ・皆勤務時間が減れば、周りを気にしないで生活重視に働けるということはある
- ・外科を志望する女子学生は増えると思う。
- ・休みがとり安くなる分、男性が家事を行う義務が増えるから
- ・共同で診療する機会が増え、個人負担が減る可能性
- ・勤務時間を短くするというだけでなく、女性医師の働き方も改革することを考えることができるようになった。お子さんのいる女性医師の勤務時間をずらして配分したり、webでの会議出席などを推進することで女性医師の働き方も変革することができると思う。
- ・形式的には進むでしょう
- ・建前であっても女性が働きやすくなる職場環境を働き方改革は推奨しているから
- ・今より女性が働きやすくなるから
- ・仕事や生活が見直されるため
- ・子育て世代医師が早く帰宅できる
- ・子育て中の医師も就業しやすくなる。
- ・自分で使うことのできる時間が増えるため
- ・自由時間が増えるから
- ・社会の文化として少しずつ根付いていくことが期待できるから
- ・若い世代の意識が変われば、全体の雰囲気も変わっていくと思われる
- ・就労において男女差がなくなる為
- ・女性が働きやすくなるから
- ・女性のフルタイム勤務者は増えている
- ・女性の常勤が増える可能性がある
- ・女性の働き方に対する理解が進むと思う。
- ・女性は働きやすくなると思います。
- ・女性医師が増えることによる自然増
- ・女性医師の数が増えるから
- ・真の改革が図れば可能
- ・選択肢が増えて、キャリアを中断しなくてすむ人が増えることが期待できるから
- ・短時間労働やフレックス勤務で子育て世代の女医さんが働くやすくなる可能性がある。
- ・男も育児・家事をすることが当然、というコンセンサスが形成されるから
- ・男女ともお互いの立場の理解が進むから
- ・男女とも労働時間が短くなることで仕事を分担する機会が増えると思われる。
- ・男女間の労働時間の差が減らせるため
- ・男女共同参画については意識改革も必要であるが、自由な時間が増えれば機会が増えると考えられるため。
- ・男女共同参画をより真剣に考える、きっかけになりうる改革だと思われるため。
- ・男女問わず平等に労働環境を調整するのは重要である。
- ・男性が育児に参加する時間が増えるため
- ・男性が家庭で女性のサポートができる
- ・男性が休みやすくなれば、女性も休みやすくなり、男女共同参画が進むと思います。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 男性の育児・介護休暇取得が現実的となれば、女性医師の働く余裕が増える
- ・ 男性への家事分担がより進む可能性がある。
- ・ 男性も家事に参加しないと家庭が回らなくなるから。また男性にプライベートの余裕時間が生まれるから。
- ・ 男性医師の当直明けに女性医師に診療を担当してもらう必要が生じると考えられるから
- ・ 当方部署では、以前から女性医師の参画がそれなりの数ある。しかし、出産や育児を考慮すると、さらに参画しやすくなるのではないかと思います。
- ・ 働き方の多様性が増す 女性もしっかり働くことができる
- ・ 働き方改革の実効性に期待します。特に女性が働きやすくなると想像します。
- ・ 働き方改革を実際に行うことができればという条件付き
- ・ 働き方改革を進めるのであれば、人手不足をパートタイムを増やしたり、女性の就職率を増やしたりすることが手っ取り早いと思ったから。
- ・ 特に女性が、よりフレキシブルに働くことができれば良いと思う。

#### \*\*思わない

- ・ このアンケートのように、使役者が労働者が働ける時間の余地があるかは考慮せず、随時に仕事を発生させることが可能な業務形態であり、上司が上位機関が課してきた仕事は労働時間を延長するしか仕事ができない構造であるため、ジョブ型とも言える時短勤務者が増えれば時短勤務ができない者が時短者の分だけ働かないといけないため。アンケートに回答(新たに仕事を課す)してほしければ、何かの仕事を減らすか自動化する手段を提供しなければ、当然仕事時間の総和は増加する。働き方改革で、自動化手段の提供や、仕事の削減が行われたことはない。
- ・ この質問自体が、男性の役割、女性の役割を踏まえた質問のように感じる・時間ができてもやらない人はやらない。
- ・ さらに後退するのでは
- ・ すぐに職場環境の改善が得づらいため
- ・ すでに区別がない。変化のしようがない。
- ・ すでに男女平等は職場では浸透している
- ・ そういう項目は見当たらない
- ・ それとこれとは関係ない
- ・ そんなに簡単なことではない
- ・ どう結びつくのかが分からない
- ・ なかなか休業していた方が、復帰しやすい職場環境にない
- ・ まだまだ日本では男女の格差もあり、土壌となる考え方が育っていないので、単に働き方改革をするだけでは変わらない。
- ・ まわりにそれほど仕事への参画に積極的な人がいない
- ・ マンパワーが足りないので意味がない
- ・ もっと金銭的な補助が必要であるから
- ・ やはり日本の社会の場合、どちらかが家庭をおこなわないといけない。
- ・ 医師になる女性の比率はすでに 40%程度となっているため、男女共同参画は進んでいくはずですが、進んでいないのは、現在の管理者層が本気で取り組んでいない証だと思います。政治の世界と同じだと思っています。
- ・ 医師の応需義務がある。 育児があるから、患者を診ない事は許せるのか？交代できない環境で働く医師もいるはず。
- ・ 医師自身の意識の改革が行わなければ勤務時間短縮のみでは進まない
- ・ 医療においては働き方改革で男女共同参画が進む可能性は低いと思います。医師の男性主体の職場環境、看護師の女性主体の職場環境が問題と考えます。
- ・ 一部に負荷がかかる
- ・ 隠れ労働が増えるだけなため。
- ・ 家事が減らないから
- ・ 科によって診療内容が異なるため。
- ・ 各個人の働き方(労働時間)の変更により、直接的に男女共同参画が進むとは思えないため。
- ・ 患者(需要)側に意識改革が最も必要であるから
- ・ 患者が減るわけではないので、誰かが負担を背負わないといけないため。診療拒否が合法化されれば解決されると思います。
- ・ 基本的な考え方に変化が無いから
- ・ 既婚女性は夜間に働くことが出来ないことが多いので。
- ・ 勤務形態が硬直化していて、柔軟性がないので、男女共同参画は進まないとおもいます。
- ・ 勤務時間に縛りをつけただけで女性が働きやすくなるとか、男性が家庭のこともできると考えるのは短絡的。本質を変えなきゃ

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

意味がない。

- ・結婚して子供がいたら女性は当直してくれない
- ・結婚後の女性が非常勤で働ける職種を増やす。
- ・現在でも(既婚・子持ちの)女性は家事負担が多いことなどから時短業務であったり、当直業務の免除などがある。男性や未婚女性の残業時間を本当に減らして、臨床現場や研究が回るとはとてもではないが思えない。
- ・現在も家庭環境などにより配慮はされている。時間制限をすることでの変化は乏しい。むしろより足りなくなる労働力を、善意の者が負担する事になる流れになるだろう。
- ・現時点での時間のみを制限するようなものでは全く変わらないと思います。
- ・個人個人の裁量にある
- ・個人差が大きい
- ・今でも女医さんは早く帰宅しているので。
- ・今のやり方では変わらない、前述と同様の理由
- ・根本は変わらないのではと思う
- ・産休などはかわらない
- ・産休や育休を取得しない教員にとって、産休や育休を取得する教員の多い職場を忌避する傾向が進み、結果的に診療業務を逼迫するため。
- ・仕事の総量が減少しない限り押し付け合いが起こるだけ
- ・仕事の量が減れば進むと思うが、減らないと思うから
- ・時間がなければ何もできない
- ・時間管理のみでは男女共同参画の達成は難しいと思います。業務内容そのもの、人材確保の見直しが必要だと思います。
- ・時短に伴う業務内容の圧縮により日常業務はさらに困難になるため
- ・実際の業務時間や責任は変わらないから
- ・収入の改善が必ずしも伴わないように思うから
- ・周囲の意識も、状況が変わっていないから
- ・就労時間を制限しても、業務量が減らなければ、結局は自宅に持ち帰って仕事をせざるを得ないため、自分が家事・育児を分担することは想像しづらい。
- ・出産・育児に係る環境が変わるわけではないため
- ・女性のライフイベントの制約
- ・女性も十分頑張っている
- ・女性医師の多くは男性医師と結婚しており、男性医師が皆早く帰る様になるには医師の倍増くらいのことをしないと対応しきれない。そのため現状では女性医師は仕事もできない。特に学童保育より上の年代で顕著に社会的なサポートもなく、海外の基準から見れば虐待に該当する鍵っ子の様な対応を余儀なくされる。実質的に虐待を避ければ仕事ができない。全科的にフレキシブルに男性医師も含めて 16 時に帰って子供を診る日を数日作るには、医師の数を増やすしかないはずなので現状の働き方改革は絵に描いた餅である。
- ・女性医師ばかり優遇されて男性医師は割を食っている感否めない。
- ・職場に遅くまでいる医師がえらい、という医局の雰囲気は変わらないため、上司がチャンスを与える人物に変化はないと思われる。
- ・人事権のあるトップの考え方次第だと思います。
- ・制限される
- ・全く関係ない
- ・全く同じように共同参画は難しい
- ・全体としての仕事量自体が減らない限り誰かにしわ寄せが行くから。また、働き方改革の恩恵で休める人と、むしろ業務が増えてつらくなる人の分断が進むから。
- ・大学、大規模病院ともに言えることではありますが、現在のポストを増やして男女共同参画を目指すならできるとは思います。今あるポストの再配分の場合では、研鑽目的の非正規労働の医師の負担が増えるばかりで、最終的には男女ともにマイナスとなってしまうと思います。
- ・大学ですと時間労働制になると、平日外勤したところを土日に大学ではたらいで帳尻をあわす必要があると聞きました。拘束時間が増える上、収入も減るのでとてもではないですが、賛成しかねます。
- ・男女で仕事内容が異なるから
- ・男女に相違なく、大学病院を去る医師が増えると予想するため。
- ・男女の能力の差は無い。個人の資質の問題。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 男女共同参画と働き方改革に関連性があるとは思わないので
- ・ 男女共同参画のための有効な策では全くない。
- ・ 男女共同参画の意味があいまい
- ・ 男女共同参画の機会は以前より開かれている。勤務形態の問題ではなく、時間短縮した際の給与が相対的に低すぎるため退職希望者が続出しているのが実情である。
- ・ 男女共同参画を促すには、日本の社会構造を変える必要があり、働き方改革の促進の寄与率は低いと考えるから
- ・ 男性のほうが、家庭の事情で休みを取るような体制が望まれる
- ・ 男性の意識が変わらなければ、いくら自由な時間が増えても変化しない。
- ・ 男性の育児休暇はハードルが高い
- ・ 男性の業務割合が増える
- ・ 男性や年長者への負担が結局大きくなる
- ・ 直接的には関係ない。
- ・ 働かない人は働かず、働く人により仕事が増すため。
- ・ 働き方と男女参画は別次元の問題と思います
- ・ 働き方改革しても変わらない
- ・ 働き方改革とは別の要素が強いと考える。
- ・ 働き方改革と収入の確保が一体として実施されない限り、収入の確保のための外病院での勤務は不可欠であり、また教育・研究・診療が求められる大学勤務において、働き方改革とは言え、実質上の労働時間が減少する可能性が低いのではないかと。特に働き方改革では、研究の多くが自己研鑽として扱われることも多く、記録上と労働時間と実質的な労働時間に大きな乖離が生じると考えられるため、働き方改革のみで男女共同参画が進むものではないと考える。
- ・ 働き方改革と男女共同参画との間にどのようなつながりがあるのか全く理解できない
- ・ 働き方改革と男女共同参画の接点がわからない
- ・ 働き方改革と男女共同参画は別物のような気がする
- ・ 働き方改革のみの結果として、男女共同参画が進むことはないと考えます。
- ・ 働き方改革の内容は根本的な解決が望める策ではない
- ・ 働き方改革より、防衛政策 感染対策 少子高齢化対策の優先性が高い
- ・ 働き方改革をしようがしまいが、家事を行う男性は家事を行うし、家事を行わない男性は家事を行わない。働かない人は、働き方改革を盾に働いていないだけ。
- ・ 働き方改革自体が形式的なものであり、かえって事務仕事が増え(勤怠記録等)、メリットはない。
- ・ 同じ量の業務が出来ないから
- ・ 内情が伴っていないため、給料が減るか、申請を偽って実際の労働時間は変わらない可能性が高いと思われるから。
- ・ 日本は後進国で、机上の理論だけ
- ・ 負担が公平化するように改革できていないため。(負担の格差が広がる)
- ・ 文化的土壌が成熟していない。
- ・ 別次元の問題と考える。
- ・ 両者の関係性がわからない。
- ・ 労働時間制限と、女性の参加増進とは別の問題。雇用者や上層部の意識が変わらない限りは無理。

#### \*\*わからない

- ・ 帰宅時間を早めるだけで業務を家庭に持ち帰るのでは、何ら変わりはない。労基対策としての「働き方改革」で男女共同参画が進むとは思えない。しかし、「働き方改革」が本来の方向に進めば、男女共同参画も進むはず。医療に関わる人材を増やす、そのための金を国が投資しなければ、「働き方改革」は絵に描いた餅。アメリカからの兵器の爆買いで防衛費ばかり増やして教育・医療への投資を軽んじている現在の政治では、その見通しは暗い。
- ・ いろいろな要因があると思われるため
- ・ ケースバイケースだと思う。
- ・ どう関係するのか分からない
- ・ 医療は人手がないとできないので、単純に時間を制限するだけで男女共同になるとは思えない。しわ寄せが必ず来る。
- ・ 育児を行っている女性医師が、診療現場で活躍できるような訓練(教育)や職場環境の整備が必要であると思う。
- ・ 家事・育児・介護の時間を増やそうとすると、仕事自体に余裕がないので他の人が大変になる。働き方改革と男女共同参画は必ずしも一致しない。
- ・ 改革が進むと思え無い。サービス残業が増えるだけに思われます。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・各医局で男女の人数が異なる
- ・共同参画は働き方改革以外の要因にも影響されるから。
- ・共同参画を進めるシステムを積極的に設定しなければ、働き方単独では進まないと思います。
- ・業務内容に変化がないから
- ・業務量や大変さは変わらないので、やってみないと分からない
- ・勤務時間への対応が中心になっており、共同参画についての対応に重点が置かれていないと思うため
- ・具体案がない
- ・現業で女性がいるわけではないので
- ・現時点で業務は男女関係なく行っているため、業務内容と云うよりも時間制約の方が大きくなるかと。
- ・現状、自分の周囲の環境からは特に変化の要素は感じられません。
- ・子育てや介護支援は不十分のままなので
- ・施設によると思う。
- ・自分自身の労働時間に変化を感じないため。
- ・自由な時間が出来ても男女を差別化する考え方がなくなると変わらないと思う
- ・女性の働き方自体が変わるかはわからないため
- ・職場スタッフの意識変革も必要
- ・職場での男女共同参画の取組がよくわからないから
- ・診療科によって違うと考えるから
- ・診療科に女性医師が増えないと男女共同参画は進まないため
- ・全体の業務量が変わらないため、特定の人員にしわ寄せ(見なし研鑽)をお願いすることになる。
- ・男女の問題は関係ないように思える
- ・男女の話とは関連するかどうかは不明と思います。
- ・男女共同参画のための具体的な取り組みが見えない。
- ・男女共同参画は時間の問題より本人の意識のよるものと思われるため
- ・男女参画は社会全体が変化しないとまだ不十分。能力の高い女性からしか意見が出ていないように思う。
- ・直接関係があるかどうかわからない。
- ・働き改革で給与が減るため、医師という職業に魅力がなくなるかもしれない。9時5時でよいとなれば女性の進出は進むかもしれない。しかし、男女同等と考える女性は給与が減った職場を目指さないかもしれない。
- ・働き方だけの問題かどうかわからないので。
- ・働き方改革がまったく労働時間短縮に良い影響がないので
- ・働き方改革が進んでもワークライフバランスが改善するとは思っていないので、働き方改革が男女共同参画に良い映鏡を及ぼすかはわからない。大学の教員はすでに男女ともに同じような仕事をしていると思う。
- ・働き方改革の理念が机上の空論であるから。
- ・働き方改革は形だけの効果しかないように思える。
- ・働き方改革以前から、職場的にもともと女性が多く、男性が顕著に減少傾向なので、比較が困難。
- ・能力がどれだけその人にあるか が一番重要で性別ではない。しかし、専門科の特性上、本当に難しいことを女医さんがどれだけしているか は 私にはなんとも言えない。いろんな働き方、働き甲斐 というものがあってしかるべきで、一人一人ができる限りの幸せを見つけられるような仕組みをつくらなきゃいけないと思う。それは、本当にクォーター制の導入などで果たせることかどうか、全く分かりません。
- ・必要な業務があれば、出勤せざるを得ないため。例えば業務(診療)を減らすには患者数自体が減る必要があるし、教育業務にかかる時間を減らすには教育業務自体が減る必要がある。
- ・表面上は進むと思われるが、業務内容まで完全に平等化(平準化)が進むかは不明であるため。
- ・予測できない
- ・様々な、要因があるから
- ・例えば子育て世代(特に未就学児)の母は、子供が熱などの場合に出勤ができなかったり早退している現状がある。この際の子供のお迎えや子供との自宅待機の際に、本来であれば夫と半分半分で休みを取ることが理想だと思う。しかし、夫の職場(他科の医師であっても、そもそも医療職でなくても)の理解は進んでいないのが現状である。女医の比率が他科と比べて比較的多い産婦人科においては、夫の職場の理解が進むことで、より男女共同参画として働きたい女医が活躍できる場面が増えると思う。

### 准教授・女性

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

#### \*\*思う

- ・ FDとして必然的研修が入れば、全般的に働き方への考え方が変わり、改善するでしょう。
- ・ 意識の変化は間違いなくあると思うため
- ・ 医師の労働時間が長すぎるのが、家庭があって、長時間労働できない女性が軽んじられる原因の一つの原因だから
- ・ 一概には言えないが、家庭の仕事は女性がより多くになっているケースが多いから。
- ・ 既に進んでいるが、加速する
- ・ 現状でも、少なくとも30年前よりは改善している。このような言葉が先走ることによって意識は徐々に変わっていくのだと実感しています。
- ・ 仕事以外の時間の使い方をパートナーと話し合うゆとりができるから。
- ・ 時間外勤務がなければ、働きやすくなると思います。
- ・ 女性が続けやすい環境と整備することは大切だと思う。但し、最低限の仕事をするのが当たり前になり、医師としての経験、技術、知識が不足することは否めない。
- ・ 女性は家庭に費やす時間が多いが、それが職場でデメリットとして目立たなくなるから。
- ・ 女性医師の重要性が増える
- ・ 男女とも家庭で過ごすことができる時間が増えるから。
- ・ 男女問わず、優秀な人材は時短で良いのでその力を発揮してほしい。逆に無駄に病院にいるだけの人材は働き方を変えるべきである。
- ・ 男性がいたらと職場にいなくなる
- ・ 男性が仕事以外に目を向けるきっかけにはなるから
- ・ 男性のみに負担を強いることも難しくなり、女性の活躍が必要となる。また1人の収入では家計が苦しくなり、共働きの必要性が出てくるため。
- ・ 男性も家庭を大事にする意識が高まる機会になるから
- ・ 男性も勤務時間以外の時間が増えるため
- ・ 男性も仕事以外の生活 家庭を選べるようになるから。
- ・ 当直回数が調整されるならば
- ・ 無償の時間外労働が必須でなくなれば、育児中の人や自身が病気を抱えている人も働きやすくなる
- ・ 労働力として女性の必要度が上がる

#### \*\*思わない

- ・ genderの差ではないと思う
- ・ うまく回る仕組みがないから
- ・ 意識改革には時間がかかるため。
- ・ 関連性がない
- ・ 仕事の絶対量は減らないため
- ・ 仕事量が増える一方なので、結局のところ職場以外(自宅など)での勤務が増えるか、勤務していないように見せかけなければならぬ。
- ・ 実感がまったくない。
- ・ 出産・妊娠女性ばかり優遇では働きづらい
- ・ 上司の考え方が変わらなければ変わらない。
- ・ 男女共同参画は、労働時間の問題だけではないから
- ・ 男性の意識改革は働き方改革を進めたところで変えられないと思いますし、未だに固定概念から抜けていない人もおります。医師だけではなく、社会全体での働きかけと理解が必要です。働き方に限らず、ブランクがあるということに対する理解と業績考慮や配慮がなされない限り共同参画は実現せず、男女が平等に働くことも女性が管理職になる機会もないと考えています。
- ・ 働き方改革とあまり結びつきません。
- ・ 働き方改革といって女性医師を優遇することが増えたら、最近では男性が追い詰められている印象です。
- ・ 働き方改革より、意識の改善の方が先決。
- ・ 問題の本質は改善しない

#### \*\*わからない

- ・ そのままの人の認識
- ・ 意識の問題です。男尊女卑の風潮がある以上、大きな期待は出来ません。また自民党政権が続く限り、真の男女平等にはな

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

らないと思います。

- ・意識改革までできるかは不確定なため
- ・医師の配偶者には、専業主婦率が他業種より多いのでは？
- ・過剰に働いていた人が働けなくなり分担する仕事は増えるから
- ・業務量が変わらないか増える中で働き方改革がどこまで有効に機能するか実感としてよくわからない。
- ・今後の情勢による
- ・自身が单身のため
- ・他者への理解がなければ進まない
- ・単純な問題でない
- ・男女の意識があまりにもかかわらない(特に男性)
- ・男性女性を問わず、育児の向き不向きがあるから。勤務時間が減れば子供に向き合うだろうというのは安直な発想だと思う。
- ・当事者の考え方によるところが大きいと思うから。
- ・働き過ぎを抑制する事で男女共同参画が進むかどうか。男女の意識改革も必要なので、なんとも判断できない。
- ・働き方改革と男女共同参画は同意義ではないから
- ・働き方改革と男性、女性の働き方の関係性が不明。
- ・働く意欲の高い女性はすでに無理してでも働いているのでこれ以上増えるかわからない
- ・日本では「家事やケア労働などの無償労働も労働である」という意識が低く、「性別や婚姻の有無関係なく子育てを支援する」意識もない。「子持ちの女性はマミートラックに乗せればよい」という論調が主流で、パートナー同士が多様な選択をしながら次世代を育成する方向には議論が進んでいない。あと何十年かは迷走するだろう。

#### 准教授・回答しない

##### \*\*思う

- ・男性の家庭生活時間が長くなる可能性があるから

##### \*\*わからない

- ・一部の施設では進むと思うが、上司だけでなく周囲の意識改革も必要。産休、育休、介護休業などで人員が減った場合、業務全体量を減らすことで対応することが可能か、経営側が考える必要がある
- ・何をされているのかあまりわからない
- ・男性が家事育児を「手伝う」ではなく「率先して行う」態度が変わっていかないと、やっませ感ばかりで女性の負担や不満はなくなるならない。
- ・働き方改革より、個々人の意識付けが重要だと思うから

#### 講師・男性

##### \*\*思う

- ・いやがおうにもワークシェアする必要が出てくるため
- ・いろいろな仕事への関わり方の可能性が増え、育児と臨床・研究・教育が平行できる
- ・がむしゃらで働いていた男性の労働時間が制限されることで、労働力が不足し、時短であっても多様な働き方が必要とされるようになり、今まで働いていなかった女性の労働も重用されるようになる。
- ・シフトを組んだりして色々やりくりが必要
- ・シフト制がしやすくなり得るため
- ・そうしなければ成り立たない
- ・それが目的では？
- ・ダブルインカムの方が働き方改革による減収の影響が少ないため。お互いに専門特化して、家事と勤務を上手く役割分担している家庭にとっては働き方改革は害悪でしかない。
- ・メインの仕事については、分業になっていくと思う
- ・より多くの男性と職場の理解が必要に思う。
- ・意識改革が進んでいるから
- ・育児は平等に
- ・一般的には進むと思う。
- ・一部の組織では女性の進出しやすい職場が増えるかもしれない。
- ・家事に使える時間が増えるから



### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 家事の分担ができる
- ・ 家事を手伝える時間が増えたから。
- ・ 家事育児との両立が可能になると思います。
- ・ 家事育児を行う時間が増える
- ・ 介護や育児をしている人がフルタイムの仕事に就きやすくなる
- ・ 会議などで Web 参加の時間が増えるから
- ・ 改革が進めば、現状の人員が働ける総時間・総労働量は減少し、結果として女性の参画がなければならないものになる。
- ・ 皆の理解が進むようになると思います
- ・ 期待するのみです
- ・ 業務遂行能力の低い教員を雇えるようになるから表面上の数字は変わるだろう
- ・ 勤務時間が性別に関係なく均霑化されると思われるため
- ・ 建前として仕事に制限時間を設けるのは、姿勢としてみせる上でいいのでは。
- ・ 研究、教育業務は参画しやすくなると予想します。
- ・ 限られた時間で、適材適所、役割分担しやすい
- ・ 効率的な働き方に変化するため
- ・ 今までが出来てなかったから
- ・ 時間を区切ることで参画できる女性医師はいると思う。
- ・ 自分で使える時間が増えるため
- ・ 女性が働きやすい職場を作ろうという雰囲気は醸成されています。
- ・ 女性が働きやすくなる
- ・ 女性にもどんどん活躍してもらわないと回らない
- ・ 女性に今以上に配慮する空気が生まれたので
- ・ 女性に出てきて貰わないと男性だけでは賄いきれない
- ・ 女性医師の時短勤務が役立つため。
- ・ 女性医師の入局が増えるので、必然的に男女共同参画は進むと思われる
- ・ 徐々に女性が増えている実感。
- ・ 職場にいる時間が短い女性が働きやすくなるため
- ・ 性差にかかわらず意識改革が進むため
- ・ 全員が休暇を取ると言うこと、男女関係なく休みが取りやすくなる環境になること、そして男女関係なくフレキシブルに働くことが可能となると思われるため
- ・ 全体的な要求水準が低くなるので
- ・ 多少は進むと思うが、出産は女性しかできないため複数の子供の出産や育児を考えると、改革を押し進めないで女性のキャリア形成に限界がある。
- ・ 男も長時間労働できなくなるから
- ・ 男女ともに休みを取りやすい雰囲気になっている。
- ・ 男女の共同参画が効率化には必須であるからです。
- ・ 男女の業務比率の平均化が進むため
- ・ 男女の役割を認識するから
- ・ 男女共同参画が進むが、働ける人に負荷が集中して、結果的に医療・教育崩壊すると考える。
- ・ 男女平等に休暇をとる意識が浸透するから
- ・ 男女問わずに働きやすい環境づくりが必要なため
- ・ 男性の意識改革も必要だと思うが、女性もより積極的に仕事をするという意識が高まらないと、改革は進まないと思いますが。
- ・ 男性の家事への参加が増えると良いと思います(期待)
- ・ 男性の過重労働は当然という風潮が無くなる必要がある
- ・ 男性の業務が軽減することで配偶者の選択肢が増えるかもしれない
- ・ 男性の自由時間が増えれば、家事や育児を女性がするという文化や風潮も、変わってくると思われるため。
- ・ 男性の職場での時間外労働が減り、自宅での育児や介護に参加する時間が増えて、女性の自宅での育児や介護の負担が減る可能性があるため
- ・ 男性の労働時間が減るため、相対的に共同的になる
- ・ 男性も家事に費やす時間が増え、女性が今より働きやすい状況が増える可能性があるため
- ・ 定時に業務を終了させようという意識が植えつけられるため。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・働き方改革で女性も育児や家事を普通にできるようになるかと思われます
- ・働き方改革によって自由時間ができれば、家庭とともに過ごす時間が増える。
- ・働き方改革により男性の仕事量・仕事時間が減り、かつ経済力が低下しなければ、家事、育児、介護などに男性が関わることで、女性が自分の時間や仕事への時間を配分できるようになると思うから。
- ・働く意思のある女性は働きやすくなるのが考えられる。
- ・能力主義と言いながら、長時間労働している男性が実績的に有利になりがちであるという矛盾がありますが、働き方改革により変化が起こるのではないかと思います。
- ・分業化が進むため

#### \*\*思わない

- ・2つの根本的な問題と異なるから
- ・アルバイトを担っていた層がアルバイトを担えなくなるため、子育てをする女医は、より条件の良くなるアルバイトに流れる。結果として共同参画を阻害すると考えられる。今回の厚労省の施策は良しの髓から天井を除くようなものだと評せざるを得ない。
- ・いくら働き方を改革しても仕事の内容も量も変わらないから 人が増えるわけでもない
- ・この改革の本来の目的が男女共同参画を促進するためだとは思っていないから。
- ・すべての女性が働きたがっている訳ではない
- ・そもそも本当に労働を希望する女性医師が増えていない
- ・なぜ役所は女性全員が「もっと仕事をしたい」と考えているのかわからない。もっと大きな仕事をしたい、参加したいと思う女性がいるのと同時に、今は育児などに専念したい、などの希望もあることを理解したほうが良い。男女平等とは聞こえがいいが、全て同じにすることは不可能である。平等というのであれば、当直回数もオンコールもなにもかも同じにすればよいが、幼児を抱える世帯にそれは無理であり、男性医師が調整を行って成り立っている。すべてを等しくすることは難しく、そのなかでうまく調整していくことは個人と所属する組織の責任であり、働き方改革という制度が担うべきではない。
- ・バランスよく仕事の振り分けができるとは思えない。
- ・ますます男性医師の負担が増えると思う
- ・もともと働き方改革と男女共同参画が関連しているとは言えない
- ・やはり、子育ては大変
- ・医師の仕事量が減らなければ、変わりようがない。
- ・医師の絶対数が増えない限りは、制度が変わっても他のしわ寄せがでる。
- ・医師業務において男女差はある。特に当直業務。
- ・医療において、特に大学病院では高い専門性が要求されることが多い。診療科単位、あるいは病院単位で一定程度の医療レベルを維持するためには相応の自己研鑽が必要であり、かつ教育や研究にも費やす時間を確保するとすると、十分なマンパワーが必要となる。医局員の少ない診療科では働き方(勤務時間を含む)を個別に調整することはかなり難しいと思われる。
- ・医療の現場でのマンパワー不足に、人材を増やすことなくして就業時間を制限したとしても、結果として申請できないブラックな業務が増えるだけ。そして権利を主張する労働者が自分の主張を通す根拠となり、結果として声の小さいものが負担増を受け入れるだけ。改善することは全くできない。私個人としてこれによって害しか被らないと感じている。
- ・医療業界は女性の力によって支えられているのではないのでしょうか。教授、病院長、講師など管理職に占める女性の割合が少ないと問題になっていますが、病院で勤務しようとする医師が男女問わず減っている状況にあるため、男女問わず残っている人材を活用するのは当然のことでは。
- ・科により救急が少なく、急変も少なく、ローテーション診療が可能な科は進むだろうが、より一層、脳外科選択者が減る状況にある。
- ・関係ない
- ・既に女医の社会進出は成されている。
- ・期待できない。
- ・逆にどうして男女共同参画が進むのか知りたい。
- ・求められる診療収入、教育にかける時間、業績に繋がる研究の目標は変更されないために業務量は減っていないから。
- ・給与が発生する時間がカットされるため、アウトソーシングに当てるコストが目減りし、かえって悪化する可能性がある。
- ・強制力がないから。
- ・業務量が減っても、家事の分担などがスムーズに進むと思えない。
- ・形式的に進めようとしているだけだから
- ・結局、職場の負担の偏りが是正されることは少ないと思うから。
- ・結局、当直などは男性中心。女性は昼間だけの勤務だから

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 結局は本人のやる気次第だと思います。
- ・ 現在の働き方改革では効果を全く実感できません。
- ・ 現時点でそういう実感を持っていないから。
- ・ 公の業務時間が減る分、誰かが埋め合わせる必要がある。その時にかり出されるのは現時点では男性医師が主体となる。結局、公の共同参画と実態とは乖離したものである。
- ・ 今でも家事育児をする必要のある女性職員は優先的に本来の業務を免除されているため
- ・ 裁量労働制で、家庭の事情で早退できた女医さんが変形労働制への移行で時間外労働ができないことから時短労働を選択し働く時間はさらに短くなる。
- ・ 産休育休含むキャリアプランがマンパワーを要するため
- ・ 産後女性医師の多様な働き方が選べる体制にないため
- ・ 子育て世代の女性が優遇されておりそのしわ寄せが男性医師を苦しめることになるから。
- ・ 思わないだけ。今まで変わっていないから。
- ・ 思想の違いなので、時間はあまり影響を与えない
- ・ 時間だけを制限したところで、何の解決にもならない。
- ・ 時間の問題だけではないと思う
- ・ 時間を制限することで男女共同参画になるわけではなく、それぞれの事情によった働き方があるためそのバリエーションを増やしていくことのほうが進むと考えるから
- ・ 自宅に持ち帰る残業が増えるかしないことで、家事や育児あるいは成果が制限されてより男女格差は進むと思う。
- ・ 実際の仕事量は変わらないので(早く帰ったとしても家で仕事をすることになるだけなので)
- ・ 実情はどうしても女性優位の方向で進んでいるから
- ・ 実態として、夜間や休日などの時間外は男性医師が負担することには変わらないから
- ・ 社会制度が十分に男女共同参画に対応できていないため
- ・ 従来の家庭内の状況や男女の考え方が根本から変わらない限り、単純な労働時間制限のみでは変わらない。
- ・ 順序が逆。男女が同じくらい働ける環境になり、仕事量の分配ができれば働き方改革は進むかもしれない
- ・ 女性が家事・子育てを担うことが多く、結局は男性医師が自己研鑽としてカバーしないとイケないから。
- ・ 女性が男性よりも家事を多くする文化が根強いので、女性医師が増え続ける状況で、現状の働き方改革(時間短縮を主軸)では、夜間など救急や当直に従事できる数少ない医師への負担が増加し、医師間格差が助長される懸念がある。
- ・ 女性が働きやすい環境(子供のことで休んでも仕事のバックアップ体制、保育園の充実)がもっと必要
- ・ 女性医師が働きやすい環境がないままに話を進めている。労働時間を減らすための環境整備なしには医療崩壊するだけ。
- ・ 女性問題だけが男女共同の問題という論点では解決不可能
- ・ 小さな子がいないから
- ・ 小さな子のいる女医は当直が難しいが、かといって男性医師ばかり当直となると人が多い科では問題ないであろうが、少ない科だと不満がでてくる。
- ・ 上記労働時間は減らないから(むしろ増えている)
- ・ 常勤の働き方に時間制限を設けると男女参画とは別問題だから。雇用者側が柔軟な労働条件と実質勤務にあった賃金を提供することが大切だから。
- ・ 診療科によって男女共同参画の偏りがあることは、働き方改革と無関係に思う。
- ・ 進む理由がみあたらない
- ・ 生物学上、無理がある。理想論です。
- ・ 生物学的な差異は大きい。
- ・ 生物学的役割は変わらない。向き不向きがある。
- ・ 表に出ない勤務時間が増えるだけで、職場にいる時間帯はほぼ変わらないと思うためです。
- ・ 全く関係ないと思います。何故時間を絞ったら情勢が参画できるという発送になるのか理解できない、それよりも保育所などの整備と思われる
- ・ 全く別問題だから。
- ・ 大学病院では今の勤務実態が変わらない限り、宿直ができる人に負担が集中してしまう、結果として男性を重視するところは変わらないと思う
- ・ 誰かが何か(プライベート・休日の時間など)を犠牲にしないと成り立たない状況である。現在の男女の構図はすぐには変わらない。
- ・ 誰かに蹴寄せがいくだけ。
- ・ 単に労働時間の制限のみで変化はないと考える。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 男女では働ける内容が違うから
- ・ 男女とも仕事量を減らしてその分相手のしごとをカバーするということになるので参画は進むが仕事は終了しない。つまり第3の人力が必要となる。第3の人はいないし、その分を支払う収益はあげられないとするとそれぞれの給与は下がる。第3のしごとはやはりだれかが無給でこなすことになるのではないかと心配している。
- ・ 男女の差は、余り関係ないと思うから
- ・ 男女を問わず、仕事に対する考え方はそれぞれ異なるため
- ・ 男女共同参画が進むことと働き方改革は別の問題だと思うため
- ・ 男女共同参画が進むストーリーが見えない。
- ・ 男性がシステム上仕事をしなくなっても、その分女性の仕事が増えるわけではないので働き方改革と男女共同参画を結びつけること自体が暴論である
- ・ 男性しか職場にいないので。
- ・ 男性労働者の家事・育児への協力、女性の就労機会の改善へのよい影響が期待されるが、少なくとも短期的には限定的である可能性が高い。
- ・ 当科は既に男女平等に、当直やオンコール業務を実施している。
- ・ 当直やオンコールが男性医師に偏るため、男女平等が進むと男性医師が大変になる
- ・ 働き方ではなく、全国の医学部長病院長のマインドが変われば進みうと思う
- ・ 働き方改革が現実に即していないから
- ・ 働き方改革と男女共同参画は別問題であると考えから。
- ・ 働き方改革による実質的な改善が伴っていないため
- ・ 働き方改革は机上の空論。医師不足を解消しない限り男女共同参画は進むとは思えない。医師一人に対する業務の多さは尋常ではなく、家に帰っても仕事をしないとイケない状況、長期休暇や代休もとれないです。
- ・ 働き方改革は男女共同参画とあまり関連しないように思う
- ・ 働く時間以外の問題も今のところ多いため
- ・ 働く方は、もとより働いている。私の価値観では仕事が育児に優先される事はない。
- ・ 同一の問題ではないと感じる。
- ・ 特定の人に負担をかけるシステムだから
- ・ 独身男性をはじめとした一部男性陣に負担が増える
- ・ 内科を敬遠し志望しない医師が増加
- ・ 日本は女性差別が強く残っている。女性の社会参画が世界の120番である事より明らか。その日本人の「未開民族性」を解消しなければ本質的に共同参画は進まないと思われる。だいたい、安倍元総理が自慢そうに唱えていた「女性が輝く社会」のキャッチフレーズ自体が女性差別的である。
- ・ 表面的な改革となることが目に見えているから。
- ・ 病院の夜勤は結局男性が請け負うから。
- ・ 別の課題だと思います
- ・ 別の理由が大きいのでは
- ・ 名目上の時間が減るだけで、仕事は減らない。特に女性はサービス残業が増えるだけ。
- ・ 問題が解決されていない
- ・ 問題はそこではない。医師の質は確実に増える。
- ・ 両者は別の issue だと思います。
- ・ 労働に見合った対価が支払われないため
- ・ 労働環境がより悪くなるため
- ・ 労働時間を制限することと女性が参画することは無関係ではないか。

#### \*\*わからない

- ・ 60歳近くなると変わらない
- ・ お子さんがおられても休日の日当直に入ってもらえるような体制が必要。
- ・ そうなって欲しいが、男性、女性それぞれ、共同参画に前向きでない人が少なくないと感じる。
- ・ その他の不確定要素が多いため
- ・ そもそも女性が少ない
- ・ それぞれの家庭の事情が大きいので、そんな単純なものではない
- ・ どのように変化するのか未知数

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・まだ時間が経っていないから
- ・改革の実感が全くないため、何が変わっているのかわからない。
- ・関連があまりないかと
- ・急な休みがとれなければ変わらないのではないかと。
- ・業務量が減っても地域での医師不足の進行もあってなかなか一人あたりの業務量が減らせないから。
- ・具体的にどのようになるのかわからないので。
- ・現在勤務する部署では実質改革は行われていない。改革が行われてどう変化するのかかわからない。
- ・現時点で夫婦共働きのため
- ・個人の労働時間制約制度と社会における役割分担には関連性が見いだせない
- ・厚労省と文科省が共同ですすめていない
- ・今まで一緒に仕事をしてきた人が変更するわけではないから。
- ・今回の改革がどこまで影響するのかかわからない
- ・若い女性医師は勤務先の異動が頻繁にある現在の研修制度の下では常勤医として雇用されながら出産、育児を行うのは困難だと思います。
- ・収入が減少し、専業主婦が働くようになる可能性もあるが、支出自体を減らす可能性もある
- ・就業中男女格差を感じる事は少ない。
- ・女性が働きやすくなるかもしれない
- ・女性の全員とは言わないが、仕事に対する責任感の持ち様が男性とは違う。つまるところは男性頼み。女性の意識が変わらない限り、職場での男女共同参画は安定しない。  
男性の全員とは言わないが、家庭の業務に対する女性負担を減らす意識が低い。男性のその意識が変わらない限り、職場での男女共同参画は安定しない。
- ・女性は育児・子育て、男性は仕事に比重が思い社会の雰囲気が残っているため。
- ・女性医師が増える分、男性医師や独身の女性医師の負担が増える
- ・女性医師と男性医師の特性には違いがあるから
- ・少なくとも自分の立場では、働き方改革の恩恵にあずかれるとは思いません。
- ・制度設計によるため
- ・性別が働き方改革に関係があるのか不明。少なくとも現時点までで、出産しない男性の労働は苛酷になった。
- ・責任感のある医師が増えるかどうかによるから不明と回答しました。
- ・他の要因もあるため
- ・男女と書いてある時点で時代錯誤も著しい
- ・男女共同とは何か分からないから。
- ・男女共同参画が世の中に良いことなのか不明。
- ・男性が家に早く帰り、女性が家事をする時間が少なくなり、女性がより働けるようになるほどの効果は期待できないと思う。
- ・男性の考え方が変わらないと実現しない。
- ・男性医師と女性医師は、上司の対応も異なるじゃないか
- ・直接結びつく理由が思いつきません。
- ・働き方改革が進んでいないので、実感がわからない。
- ・働き方改革で男女差が生じるのかわからないから。
- ・働き方改革と、男女共同参画は似ているようで異なるものと考えるから。
- ・働き方改革と男女共同参画には親和性に乏しい部分もあるから
- ・働き方改革と男女共同参画の関連が見いだせてない
- ・働き方改革と男女共同参画の結びつきがいまいち理解できない。
- ・働き方改革の実効性や現場での具体性が明らかでないから。
- ・働き方改革の問題ではないと思う
- ・理想的な状況にいたるには医師の絶対数が増えない限り困難と思われるため。
- ・立場が上がるほど、職場にいない時間での業務が増える。結局は子どもや親の面倒を見ながら自宅で勤務するしかない。むしろ職場にいた方が集中して業務ができるし、子どもや親を預けられる環境整備の方が大切。
- ・話しは別だと思うので。

#### 講師・女性

\*\*思う

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ オンオフはつきりつけられるようになると男女とも仕事も子育てもしやすくなる
- ・ これまで暗に負担がかけてきた独身者に対する考え方が改められるため。また、強制的にも女性比率を上げざるを得ないため、初めは形だけのように見えても、女性比率が上がれば根本的な考え方も変化してくるため必ず進むから。
- ・ これまで労働時間が長かった人たちの家庭の時間が長くなると思う
- ・ まずは男性も家事、育児を分担し、会議は時間内に行うなど具体的な改革をしてほしい。
- ・ メール、Web 会議で済む仕事の割合がふえ、拘束時間が減り効率が上がっているから。
- ・ 何もしなければ変わりようがない。改革が進めば何かは変わらと思う。
- ・ 現在でも女性が家庭、育児に費やす時間が多い。家庭や育児があると業務時間を守る必要があった。業務時間で帰宅しても、家庭ではさらに育児や家事が多く疲弊する。帰宅時も他の同僚へ気兼ねがあり精神的にも疲弊していた。そのため、時短勤務や退職を選択せざるを得なかった。働き方改革が進むとそのような精神負担も減少するし、配偶者も同様の時間に帰宅できるため、家事分担も可能となるため。
- ・ 若手男性は職場でやる事がなくなるから、しかたなく家事をするのでは。
- ・ 主に男性の家事育児参加機会が広がる
- ・ 女性が時短勤務で安く使われるのがすこしは改善されるかも
- ・ 女性のディスアドバンテージが減るため
- ・ 女性の参画があたりまえになる
- ・ 常勤フルタイム以外の選択肢が増えれば進む気がする
- ・ 性別を超えての生活の質維持の意識改革にもなるから。
- ・ 男女の隔てなく、働き方改革をすることによって、女性のみならず仕事・育児の両方の責任がかかることを回避できるのでは、と期待しています。
- ・ 男女問わず仕事をなるべく短時間で終わらせる雰囲気が作られるため
- ・ 男性が育児・家事を行いやすくなる
- ・ 男性が仕事以外の時間をどう過ごすか考えるきっかけになる。やらないよりはマシだが、医療職の意識が変わるためには働き方改革だけでは困難であると思う。
- ・ 男性の働く時間が減れば、それだけ多少は家事・育児に時間を割くだろう。
- ・ 男性も早く帰れて育児に参加してもらえ
- ・ 男性側の不公平感が減ると思う。また、働き方改革にはマンパワーが必要不可欠なので、女性の離職を防ぐためのシステム作りが進むと思うから。
- ・ 男性側の負担も軽減しなければ女性側に配慮することもできないしお互いを理解して対応することができないから。
- ・ 長時間労働が当たり前の環境が変化することで女性医師は働きやすくなる可能性がある
- ・ 働き方改革にもっとも必要とされるのは、何といてもマンパワーだと考える。女性医師が働きやすい職場(子育ての為に休んでいい職場ではなく、あくまでも出産後も働き続けられるシステム)を早急に構築しないと、間違いなく専業主婦を配偶者に持つ男性医師や、独身女性医師は疲弊し、離職者が続出。いずれは医療崩壊につながるのではと常々危惧している。女子学生を医学部から意図的に排除ができなくなった現状では、たとえ子育て中の働き方が 0.5 あるいは 0.3 位であったとしても、有能な女性医師に働き続けてもらいたいという職場は出てくると思う。そこで、ようやく医師の男女共同参画は進んでいくと考える。
- ・ 理屈上は男性の就業時間が制限されればその隙間に女性が就業する時間が分配されるし、家事育児に男性が関わりやすくなるかもしれない。

#### \*\*思わない

- ・ unconscious bias は簡単には消えないから
- ・ そもそも働き方改革と男女共同参画は別物であり、性別で業務内容を考慮するものではなく個人の能力や意欲、家庭環境、生活状況に応じて働き方改革をすべきである。
- ・ 依然家事の大部分は女性が行っている
- ・ 育児で時短勤務の女医が増えるだけで、しわ寄せは変わっていない。時短勤務も子供が何歳になったら常勤へ戻すなどの対策が必要。
- ・ 家事や育児の問題の方が関係あると思うから。
- ・ 過剰に女性を登用しようという動きだけが浮いている様に感じる。
- ・ 業務時間を減らすための業務内容改善策と、男女共同参画を推進させるための対策は異なる。
- ・ 結局時間に融通の利く人だけが時間外労働やサービス残業をすることになるから。
- ・ 現状でも、女性は不利な立場におかれることが多々みられているため、制度をかえても改善されないと思います。働いている職

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

場の方々の意識がかわっていくことが大事なのではないかと思います。

- ・現状をみるかぎり、口先や体裁だけで、変わらないと思う。
- ・現代では、性差の問題ではないと感じています。家庭、子供の有無による、格差が生じていると思っています。家庭、子供有が、多くのことで優先され、優遇され、キャリアアップの等の制度が満たされる、一方で無の人は常に働き、代行や移動要員を担います。その分の恩恵が必ずしもあるとは限らないです。
- ・根本的な考え方が変わらなければ変わらない
- ・最終的には女性医師自身のやる気やモチベーション維持がないと、うまくまわらないと思う。
- ・残りの時間の使い方は個人の自由であるため
- ・子供がいる、介護者がいる人が休暇をとる分、それに当てはまらない場合は休めない。むしろ矛盾している。
- ・子供の預け先や病児保育の問題が解決していないと男女共同は難しい
- ・社会や考え方が変わらないと、結局自己研鑽で仕事をする時間は同じなため。
- ・女性が積極的に働くためには、働き方改革ではなく、育児支援が重要なため
- ・女性が働くことと働き方改革は関係ない
- ・女性の活躍を推進するという名目の仕事が増えるが、家事などの仕事は減らないので、負担が増える
- ・女性はより家庭を重視できるようになる。
- ・他人のために時間を使いたくない人、また働かない(働きたくない)人が増加しているように思う
- ・大学が医局から派遣の兼業を業務時間と認めなくなったため大学の業務時間外が増え、兼業が労働時間に上乘せされる形となった。よって、家事やプライベートに割ける時間は減っているため。
- ・単身女性や男性医師への負担が実は増えているのでは。
- ・男女共同参画が進まない理由は別にある
- ・男女共同参画と結びつくという意識なく、現場は働き方改革を進めている。
- ・男女共同参画と働き方改革は別の問題です。
- ・男女差別はなくなるらない。
- ・男女平等の考え方が定着しなければ、世の中は変化しないと思う。それには、一世代かかると思う。
- ・働き方改革が進んでも、実際働く環境に大きな変化はないため
- ・働き方改革で良いのは、自分で勤務時間や、終了時間が決められる点。その点を上手く使えば、大学病院勤務でも、研究時間などを捻出できる可能性がある点は良いが、それが男女共同参画に繋がるかは不明。結局、海外での女性医師で頑張っている人、日本でも教授クラスの方々は、家の事は割り切っていない人が多い。日本では、同じ仕事をしていても、食事の準備はやはり女性。根本的に男性の考えは変わっていないと思います。
- ・働き方改革と男女共同がリンクしているようには見えない
- ・働き方改革の内容によっては、男性も休む、女性も休むだけで、代わりの者が役割をこなすシステム構築がなされないままであれば、残ったものの負担が増えるだけで、機能しない。
- ・日本に根付く考え方を変えていかないと限り変わらないと思うから
- ・日本社会における根強い男性優位的な風潮はなかなか変わらないため
- ・役職等により負担は異なると思う。病棟責任医師のため、非番の土日でも当直医からコンサルとの電話はいつでもかかってくる。まったく休まらない。

#### \*\*わからない

- ・かけ離れすぎていてイメージできない
- ・きっちりやれば進むとは思いますが、改革のやり方が中途半端である。
- ・ワークライフバランスが改善すれば共同参画は進むと思うが、働き方改革だけではない問題もあるため、進むかどうかはわからない
- ・医師の労働は1日8時間など一定シフトで容易に定義できるものではなく、多様な働き方をしにくくなった。
- ・一部のみ変わると思う
- ・改革したばかりなので
- ・各々の意識の問題だから
- ・各々の考えや状況が異なる
- ・勤務時間が変わる人の割合がわからないため
- ・真の労働時間の効率化はなかなか進まないと思うから
- ・多くのことが変わりすぎて予測ができない。
- ・男女ともに変化するため

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 男性の家事・育児参加が進むなら女性医師の職場復帰が促されるかとは思いますが、そうなるかは予測できないから。
- ・ 男性優位の環境は変わらない
- ・ 働きながら子育てして、理不尽な扱いを受け続けたが、今の若い世代も理不尽とは言えなくとも、モチベーションを保つのが難しい扱いを受けていると思う。男女差、子持ちかどうか、平等は難しい
- ・ 働き方というよりは、マルチタスクな女性の状況（優先度として、代わりがいる仕事は下がってしまう）、雇う側の上司の意識の問題がいまだ大きいと思います。
- ・ 働き方改革が進んでいないため
- ・ 働き方改革と男女共同参画は異なるように思う
- ・ 保育環境の整備が全く足りていない。

#### 講師・回答しない

##### \*\*思う

- ・ 男女共同参画は増えると思う。同時に、子どもの病気や夕方以降の業務を独身者や勤務者が代行することが増えると思われる。
- ・ 男性医師が家庭にいる時間を増やせるように思う。

##### \*\*思わない

- ・ 全く別の問題だから

#### 助教・男性

##### \*\*思う

- ・ これまで大学病院などでは男性医師の夜間・休日オンコールや当直が圧倒的に多かった。女性医師は家庭事情などで時短や当直免除などがされていたが、男性医師も今後当直明けは休みを取る事によって、家庭に参画しやすくなるため、その分パートナーのキャリア促進などに寄与すると考える。
- ・ しっかりと隔てのない勤務形態が確保しやすい。
- ・ シフトワーカー的な働き方が認められるから
- ・ そうしないと仕事も家庭も回らないから。
- ・ そうならない病院は医者が集まらないと思う
- ・ そのための改革
- ・ パートタイム勤務
- ・ ワークシェアの必要性が増えるため
- ・ ワークライフバランスがとれるようになるため
- ・ ワークライフバランスの改善は男女の家事育児への時間分担の不均衡を改善すると思われる。
- ・ 意識が変わることで働き易くなると思う
- ・ 医師に限らず女性の社会進出は推進すべき一方で、子育て支援を充実されるべき。
- ・ 育児休暇、産休に対する柔軟性は出てきている印象
- ・ 家事や育児はしやすくなるため
- ・ 家事を手伝えるから
- ・ 家事を分担できるから
- ・ 家事負担がへれば女性の社会進出が増えるのではないのでしょうか。
- ・ 家庭に割ける時間が増えるから
- ・ 環境を指定すればそうなる
- ・ 管理職の立場としてはメリットが少ないが、若手の先生には勤務時間が明確になることにより、家事および育児の分業がしやすくなると思う
- ・ 業務の組み立てから意識されていそう
- ・ 勤務間インターバルを確保するためには、昼間の時間帯だけでも勤務できる人の数を増やす必要があり、フルタイムで働けない人も積極的に雇用することになるから。
- ・ 兼業夫婦も17時以降の生活が充実する。
- ・ 研究などにおいて初めから無制限に近い働き方をしていない人にとっては時間の融通が利きやすくなるのではないかと思う。
- ・ 研究活動さえ行わなければ労働時間の短縮は可能かと思う
- ・ 元々それを盛り込んだ政策であるから
- ・ 個人のプライベート状況によらず、同じ時間内で仕事をするため



### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 効率の良い人員配置が可能となると思うため。
- ・ 今よりは改善すると思う
- ・ 最近の女性の社会進出や昇進を顕著に感じるため。
- ・ 残業が減れば早く家に帰って育児、家事に時間を使えるため、妻の仕事準備のための時間が確保され、結果的に女性が仕事に参加しやすくなることがある。
- ・ 仕事以外の家事等の分担
- ・ 子育てに使う時間が多少増える可能性がある。
- ・ 子育てに費やす時間ができるため。
- ・ 子育てを独身女性や男性が業務量でカバーしてあげることが一般的になったため。
- ・ 時間が増えるから
- ・ 時間をきちんと区切ることで個人々の業務が明確化する
- ・ 時間外に行われていたカンファレンスが時間内に行われるので、子育てに忙しい人も参加可能になるため。
- ・ 時間内のみの労働になるから
- ・ 時短勤務をどれだけ容認できるかにかかっている。ただし、当直できないのであれば、男性だけに負担がかかり続ける。
- ・ 自己研鑽の時間が増える
- ・ 自由な時間が増える
- ・ 出勤・退勤時間や出勤日数の柔軟性が増すと思われるから
- ・ 女性、特に子供がいる女性の労働力が無ければ働き方改革はできないと思う。
- ・ 女性が意見しやすい環境になるため
- ・ 女性が進出しやすくなるかもしれない
- ・ 女性が働きやすくなるため
- ・ 女性にとっては、時間単位で働きやすい。
- ・ 女性にも働きやすい職場環境になると思います。
- ・ 女性の参画を増やすには男性が家庭で過ごす時間を増やすことができないと困難だと思う。
- ・ 女性の残業、時間外勤務が減ることが予想される
- ・ 女性の就業が増える可能性が高いと思う。
- ・ 女性の進出が増えれば、必然的にバランスをとる力が働くため
- ・ 女性の登用をさらに促進すべきであるから。
- ・ 女性は働きやすくなるから
- ・ 女性をもっと仕事できるようにしたら人材が増える。男は仕事、女は家庭というのはやめて、みんなでどちらもやれば良い。
- ・ 女性医師の活躍の場が増えそう
- ・ 女性優遇が進むだけで、男性は変化ありません。むしろ男性医師の負担は増えると思います。
- ・ 職業による
- ・ 職場での労働人数の確保が必要になるため、女性の社会進出がすすむ
- ・ 診療時間を制限することで性差は是正される方向へ進む可能性がある。
- ・ 進むが、何が真に適切なのかは分からない。
- ・ 進んでほしいという希望も込めて上記を選択
- ・ 数が多いかはわからないが、制度を適切に運用する機関があるはずなので、その分だけ男女共同参画は進むと思います。
- ・ 世の中の流れで
- ・ 絶対的な医師不足に陥るので。
- ・ 多数に業務を振り分けないと、業務が回らないから。
- ・ 体力面でも余裕が出るため
- ・ 男女それぞれのワークライフバランスを評価する視座を持つことを当たり前とし、質を上げる意識を持つようになるため。
- ・ 男女という区別なく、家庭人としての意識が変化しているため。
- ・ 男女という区別でなく、個人々人として適材適所に働ける環境作りが働き方改革で進めば、男女共同参画は可能であると思う。ただし、例えば女性管理職の割合が少ないから、女性の社会進出を優遇しようとしたりするのナンセンスだと思う。
- ・ 男女とも職場に拘束される時間が削減されるため
- ・ 男女とも働きやすい環境となることが期待される
- ・ 男女の労働力の差が埋まるから
- ・ 男女関わらず働きやすい職場になりうるから
- ・ 男女共同参画はすすめるべき時代だ

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・男女差、子供のいる人、居ない人の仕事の時間差が減る結果、不公平感が減るため
- ・男女差が無くなるから
- ・男女平等に育休などを求める権利意識は広がると考えられるため。
- ・男性が育児に参加しやすくなるから
- ・男性が無茶苦茶な勤務をできなくなり、家庭への参画が増えるから
- ・男性の育児、家事介入が増える可能性があるから
- ・男性の家事育児参入
- ・男性の家事参加量が増える可能性があるから
- ・男性の収入が減るので、女性が働かざるを得なくなるのではないかと。
- ・男性の労働時間が減る(休暇などを取りやすくなる)ため。
- ・男性も家事をやるようになるから
- ・男性医師がはやく帰る環境が重要
- ・男性医師が家庭を支えやすくなる。
- ・男性医師の時間外労働が規制されることで、男性の家庭進出が促進されることが期待されるから。また、法の強制力をもって、男性医師が労働できなくなった「すき間」を埋めるのに、女性医師の力が必要となる(完全育児休業⇒パートタイム勤務で男性医師のインターバル中の病棟業務を担うなど)と思われます。
- ・男性医師の労働時間が限られる分、女性医師にもお願いしなくてはいけない時間が必然的に増える。また共働きの男性医師が家事を負担できる分、配偶者の女性医師が医師業務に集中をできる時間が増える。全体的に効率化が進めばいいが、単に医療の質が落ちないかは心配
- ・男性医師も帰宅する時間が増える。
- ・男性中心の業務計画が減ると思われるため
- ・中枢を担う人たちがそういうことに敏感なため。
- ・長時間労働が出来なくなるため。
- ・働いている人たちの意識改革が進めば、その結果として男女共同参画は進むと思います。
- ・働き手が増えることにより当番を回せる人数が増えるため。
- ・働き方を改革するには女性の意見が重要だから。男性は働きすぎることを美德としやすい。
- ・夫婦で家事を分担する時間を捻出できるようになるため
- ・分野によってはありえる
- ・母親業兼務の方の実働が増える可能性があるため
- ・無理な残業をしないで働くということが常識となり、定時出社、定時退社してもよい雰囲気が広がり、出産・育児があっても常勤で働きやすくなったため。
- ・有給休暇をとり、パートナーが労働できる。
- ・労働の目処や計画が見通しやすくなるだろうから
- ・労働への考え方の均一化に繋がるため
- ・労働時間の性差は相対的に減少すると思われるため
- ・労働時間を制限することで、労働可能人数が増加する可能性あり。

#### \*\*思わない

- ・個別化がなされていないから
- ・「働き方改革」という名の下に共同参画を進めるべきではない。
- ・2つが関係しているとは思わないから
- ・改革のなかで、医師でなくてよい仕事がきちんと削減されるような様子はいまのところなく、結局大きな仕事量はかわらない。たとえば大学で、臨床・教育・研究をやる場合、時間をかけずにすむ仕事というのはなく、研究は臨床の合間の時間でやらざるをえない。医師でなくてよい仕事がきちんと削減されていない現状では、育児・家事に一定の時間をさかざるをえない女性が、大学で臨床・教育・研究のすべてをしっかりと行い業績をだすのはかなり難しい。未婚の女性がパートナーが育児・家事をむしろ主にやってくれるような方でないと厳しいと考えると、男女共同参画が急に進むとは考えづらい。
- ・あまり関係がないと思う。
- ・これまで何も変わっていないので
- ・ジェンダーに関するギャップや偏見で女性は社会進出にハンディギャップを背負っているのに、そこは考慮されずに、義務だけが平等に付与されており、格闘技で言えば階級の違いが考慮されず、無差別級の戦いになっているため、女性が進出することは今後も難しいだろう。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・そもそも命を預かる仕事は減らせないことが多いので、若い人はそれを嫌がって他人の命に関係ない職場へ入職するので、現在の職場は入職者がいなくなって崩壊していくだろう。
- ・そもそもどういう理屈か説明してほしい
- ・そもそも医師の数が少ないところに無理やり働き方改革を行っても、女性医師が働きやすい環境ができるとは思えない。実際に大学は勤務環境が悪すぎて女性医師が常勤になれない。
- ・パートタイムの女性の働き方が難しいと思われるため。
- ・パートタイム勤務を「女性支援枠」という名のもとに女性に時短を強要している部分があるところを見直さないと、女性の労働参画は増えないと思う。
- ・バックアップが充実していない
- ・ほぼ無関係
- ・マイナー科医師は待機、当直ができないと戦力としてみなされないから。仕事をこなすためには自己研鑽の時間が必要だが、勤務時間外にその時間を設けるのは難しいから。
- ・まず、働き方改革が進むことで、男女共同参画が進む理由を教えてください。
- ・ママさんドクターが増えたとしても、夜勤専門の医者などができないことには、変わらないと思う。
- ・メリットがないから
- ・もともと男女は平等ではない。男女共同参画は夢物語である。それよりも、働かない科と働く科、Dr.のレベルでインセンティブを付けてもらいたい。
- ・より、独身もしくは、男性の負担が増えるだけ
- ・より働けない人との格差は出ると思う
- ・ワークライフバランスと同じ理由 産休育休含め現実的に権利として行使することが困難 人手不足で休暇を取ることが歓迎されないから
- ・意識改革が遅れている
- ・意味のない改革。働ける時間が減るのに診療研究教育をどうやって捻出すればいいのでしょうか。適正な報酬を払えばいいだけ。
- ・医局の人数や、病院全体での仕組みを提示してもらうことが必要かも。
- ・医局員全体での勤務時間が減るため、時間・質を落とさないとすると、育休・産休・介護休暇を取る人を雇えなくなっている現状があり、またそのような事情のある方は大学病院以外の経営上の自由の利く民間病院に移る他ない。
- ・医師(女医)の偏在が変わらない限り難しい
- ・医師の数、特に男性医師を増やさないと、無理だと思う。
- ・医師の偏在が解決しないとよくなる。
- ・医師業務は上記理由により、出産育児中の女医さんには、同じ水準で行うことは困難だと思うため。
- ・医者が増えないと意味がない
- ・育児が必要ない時間に就労するわけではないので
- ・育児介護休暇はとりやすくなっているが、その分他の人間への負担は倍増している
- ・育児負担の軽減に本気で取り組まなければ、ほとんど改善しないと思います。
- ・因果関係が不明
- ・何もメリットを感じない
- ・家事、子育ての配分など他の要因の影響がある。
- ・家事は女性、という固定概念があるため
- ・家庭のために自己研鑽を回避するのであれば、そのように評価されるから。
- ・家庭の事情・状況にかわりないため。
- ・家庭状況によりけりだが、出産・育児をする女性へのキャリア継続はなかなか難しいのは感じる。
- ・改革の恩恵を感じていないから
- ・改革内容と性別が関係しないから
- ・改善点があることはいい。しかし、実際使っていない。
- ・各仕事の領域は専門性により決まっている。家事はその家庭毎の常識・文化で決まるので制度を変えた効果が現れるには時間がかかる。
- ・完全に時間で勤務を切るのは難しいから
- ・患者がいる限り、時間を問わず、医師が診療に従事する必要がある状況は変わっていない。そもそもそこに元々、男女差はない。
- ・患者を優先するのであれば、継続は困難。
- ・慣習はなかなか変わらないと思うから

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 関係ないと思う
- ・ 関連性が見出せない
- ・ 逆になぜ、男女共同参画が進むのか教えてほしい。
- ・ 求められているものが違うのに無理矢理平等にする動きが頭悪いと思うので
- ・ 給料が減るだけの改悪だと考えているから
- ・ 給料が少なく、単独で家庭を維持できないがゆえの共働きであり、上記の通り年収が減少すれば「表面的には」女性の社会進出は増加するだろうが健全な男女共同参画とは程遠い印象である。社会進出に重要なのは働き方改革よりも賃金上昇や福祉（保育制度）の充実である。
- ・ 教授や病院のトップメンバーの多様性が担保されていないと、根本は変わらない。
- ・ 業務の効率化が行われな限り、業務に従事する時間が制限される代わりに自己研鑽の時間が増えるだけであるから
- ・ 業務量は変わらず医師数は減るため、男女共同参画が進む希望は全くない。むしろ子育てをしなければいけないとのことで、女性医師は大学を離職するばかりで状況は悪化している状態。
- ・ 勤務時間を減らすことだけでは解決しないと思うため。
- ・ 形だけ残業時間を制限しても、男性の勤務時間短縮には繋がらず、従って女性の働き方も変わらない結局、勤務時間短縮が個人の努力に委ねられている
- ・ 決める人による、現場を知っているか知らないか、興味があるかないかによる。
- ・ 結局、自己研鑽時間にされて意味がない。育児のための長期休暇などは取りにくい
- ・ 結局は個人の能力に依存するもので、性別には関係ないから。
- ・ 結局フルタイムで働ける人に絞寄せがくるだけ
- ・ 結局遠方の外勤や転勤先等々は男性医師、独身、動ける男性医師に偏っており、女性が県の中核に近い施設での勤務になる。移動時間も男性の方が多く、男性が無理をすべきという風潮は何も変わらない。むしろ、パフォーマンス的に働き方を進めることで、しわ寄せがひどく、裁量労働では時間外としてもその実態がでてこない。
- ・ 結局、男性がある程度カバーしないとイケない
- ・ 結局、当直業務などでは男女差が生じると思われる。
- ・ 結局、働ける人にしわ寄せがいくから
- ・ 見かけ上の改革で収入が減るため、それを補うためにアルバイトを行うことで今以上に拘束時間は増えるため。
- ・ 見せかけの労働時間が減らされるだけで、実際の労働時間は変わらないから
- ・ 現在の働き方改革は男性の育児参画を促すようなものはなく、ただ勤務時間のみ制限しているため。また、根本的には 50-60 歳代の管理者世代に、男性の育児参画(=帰宅時間の制約)を快く思わない方が多いので、これらの方々の考えが変わるか、あるいは退職されるまで男女共同参画はあまり進まないように思われる。
- ・ 現在変化ないので
- ・ 現時点では調整が不十分だから。
- ・ 現場では実質的な働き方は変化していないため
- ・ 現場と規制の乖離があるから
- ・ 個々の施設の勤怠管理によるから
- ・ 個別の力量によると思う
- ・ 雇用可能な人数が変化するわけではない。
- ・ 雇用側・管理者側の意識が変わらないため、かえって育児する世代の労働負担が増えている
- ・ 考え方の自由が奪われている
- ・ 今すでに何も変わってないから
- ・ 今の段階で変化に実感がないため
- ・ 根本的な社会構造が男性型社会のまま、大人の都合で子どもを保育園に預けているだけ、将来の世代が健全に育つ機会も奪っている
- ・ 根本的に、女性が働きやすい法整備必要。
- ・ 残業が増える可能性があるため
- ・ 仕事の総量が減らないので、休んだ人の分を自己研鑽として働いている。他人の家庭のために自分の家庭を犠牲にしているため相互理解は深まらない。
- ・ 仕事の無駄をなくし、効率を高めるシステムがない状況では外見上の働き方改革(勤務時間を制限)をしても、余った時間をこれまでできていなかった活動や作業にあてることは難しいため。
- ・ 仕事は減らないから
- ・ 仕事を均等に割り振れないから。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 仕事量は一定のため、仕事時間は短縮されても業務負荷は上がるため。
- ・ 仕事量も内容も全く変わらないので。
- ・ 使える時間がまとまっていないと、どちらも中途半端になると思われるから。職員が全員土日休みだと必ず誰かが帳尻を合わせるの、平日でも休みの日を設けるなど、仕事と家庭のバランスを男女とも作りやすくする必要があるのではないか。
- ・ 子どもがいる家庭において、女性が仕事にどれだけ従事できるかは家庭環境(両親など第三者のサポート)や夫婦の価値観によるところが大きいように思う。
- ・ 子育てなどにより女性は男性より制限が多いので。
- ・ 子育てへの補助が全く足りない
- ・ 子育て負担が大きい社会なので、女性が勤務できにくい環境はまだあり続けるから。
- ・ 子持ちの女性医師は「配慮」の名のもとに都心部での勤務になり、僻地に行くのは男性医師か、独身の女性医師に限られ、不平等が一層進むと考えられるため。
- ・ 時間だけ制限しても、仕事の質やシステムが変わらないから。
- ・ 時間調整だけでは進まない
- ・ 時短勤務の待遇が最悪だから。
- ・ 自己研鑽が増えるだけになるのではないか。
- ・ 自己研鑽できる人員とそうでない人員で差が生まれるから。
- ・ 自己研鑽という名目で残業が形骸化し、実態とは程遠い改革になることが予想される。
- ・ 自分の環境では何も「医師の働き方改革」は行われていないため
- ・ 実効性のある具体的な議論は現場では行われていないため。
- ・ 実質的な改善になっていない。
- ・ 実質的な業務は変わっていないため、男女共同参画が進むとは考えにくい。
- ・ 実態を伴わない改革は進めても意味がないから。
- ・ 実力相応の評価をせず、年齢や女性、育児中というだけで仕事をしない医師が評価されるから。そもそも男女共同参画と「男女」の二元論であることが、時代錯誤。結局、衡平な報酬の分配が行われないので、無意味。
- ・ 社会は変化しないから
- ・ 若手医師としての業務範囲は縮小し児を抱えた女性が働きやすくなったが、女性医師のキャリアアップ(管理職への昇任)への壁が余計高くなった。
- ・ 収入の問題が大きくあり
- ・ 収入減による生活への影響が出てどうなるかわからない
- ・ 収入効率から妻より自分が働いた方がよい
- ・ 就労時間を制限されたために生じる収入減額を補填するための給与単価の増額が望まれる状況下では雇用の枠は増えないのではないかと考えます。
- ・ 出産・育児の支援のさらなる充実が必要と思われる
- ・ 出産と育児についていまだに女性の主導権が強い
- ・ 出産育児に関わる女性医師の権利や処遇はこのご時世なので他の医療関連職と比較しても手厚く守られていることが多い印象だが、育児に関わる男性医師については全くケアされていない。当院の託児所では男性医師は病児保育を利用できない制度になっている。また、産休・育休でスタッフが抜けても診療科・講座の業務量はほぼ変わらず、それを一部のスタッフが自己犠牲の精神で尻拭いしているにも関わらず、そのスタッフへの正当な評価が全くされていない。産休・育休でスタッフが抜けた際に業務量を適切に減らす、もしくはスタッフを補充しない大学・病院管理者には罰則が必要だと思う。努力義務ではどうにもならない。
- ・ 出産育児をこなしながらの労働は厳しい
- ・ 順序が逆だと思うから
- ・ 女医復帰枠などパートタイムで働いている女性医師が当直や準夜診療ができないため、同じ子育て世代なのに男性医師が結局はその分をカバーすることになる。そのため、男性医師はクタクタの中で家事・育児もすることになり、男性医師だけが疲弊していくことになる。今までもそうであり、むしろその状況が加速し得ないと恐怖を感じている。
- ・ 女子を守るばかりで、男性はそれに耐えることが当たり前という風潮がむしろ違和感がある
- ・ 女性が育児をするという固定観念が変わっておらず、その一例として児の体調不良時にお迎えに行く多くは女性になっている。そういったことへの介入が無いから。
- ・ 女性が家庭をみるという根深いものがあるため
- ・ 女性が子育てしていることが変わらないから
- ・ 女性が女性であることを利用してより女性に都合がいい環境を作るのみ。見えないところでも見えるところでも男性側にしわ寄せ

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

せがくる。それを防ぐために結果として女性の社会進出を抑制する。

- ・女性が積極的な仕事を増やす・昇進するような風潮がないので。
- ・女性が働きやすい保育環境が整備されていない。
- ・女性だけが育休産休で得している。その分男性は損。
- ・女性には、産休、育休が付きまとうため、どうしても修練時間に影響が出る。そこは埋めようが無い。埋めるのであれば、働き方改革以前に、その人のやる気と器用さが重要な要素と思う。
- ・女性のキャリア形成には関係しないと考えるから
- ・女性は育児などが忙しいため。
- ・女性は産休や育休などで結局のところ休むため
- ・女性は仕事しやすくなると思うが、残った仕事は男性に回ってくる
- ・女性への支援や女性の進出意欲が少ない。そしてそもそも人がいない
- ・女性医師、男性医師ともに、なるべくフルタイムで働けるようなシステムを構築することが重要と考えるが、働き方改革は内容的に、そのシステムを満たすためになっていない。
- ・女性医師には恩恵があると思うが、男性医師には逆効果な面が多々あると思われる。
- ・女性参画の対策は別問題。
- ・女性進出あるいは子育て男性を支える男性、特に独身男性に対する手当が十分でないと、一方的な周囲の犠牲で産休・育休・オンコールなどの診療・教育が成立することになる。ただ女性医師の現場復帰、家庭両立だけを目指すといずれ体制は維持できなくなると思うから。
- ・女性優遇が加速するのみでは
- ・少なくとも収入の効率の悪い大学病院は敬遠されるから。
- ・少なくとも大学病院という組織では、うまく行かない
- ・少子化対策が必要な社会であることや産休が人間としてどうしても必要であるかぎり共同参画は部分的なものになると思う。
- ・そもそも負担をしいるシステムであり、むしろ男女問わず多数がドロップアウトすることで崩壊していくとしか思えない
- ・働き方改革が実践されていない大学のため
- ・診療科毎の志望者の偏在が悪化の一途である為
- ・辛い仕事、割りに合わない仕事は結局これまで通り男性に回ってくると思われるため。
- ・人それぞれ。
- ・人手が増加しない限り仕事量は変化しない
- ・人手もお金もないなかで働き方改革のみ進めても実効性は伴いません。
- ・制度は改革が進んでいくが、組織全体がよくなるように制度を利用しきれていないと考える。
- ・性別より個人の資質の問題だと思います
- ・生物的特徴がある以上、ある程度の業務内容に差が生じるのはやむを得ないと感じるため
- ・先の回答と重複するが、労働時間のみで評価しようとしている働き方改革では、育児や介護などあらゆる私的理由に対応できず、収入面も考慮すれば夫婦のどちらかはキャリアを犠牲にするなどが必要となる。
- ・前述のとおり、大学病院では負担が増える
- ・全体の労働時間が減るので、時間あたりのやるべき事は増える。男女共同参画には影響ない。
- ・体力の差があるから
- ・怠けたい女性がますます怠ける口実を得る一方、一部の真面目な素晴らしい女性が割を食う
- ・男女ともに働きやすくするには、24時間保育施設のような育児と仕事を両立するための施設が必要です。多くの女性医師が短縮勤務を余儀なくされています。働き方改革により勤務時間を減らされてもサービス残業が増え、収入は減り、女性医師は余計に働きづらくなると考えます。
- ・男女とも働き方に制限がかかるだけ
- ・男女の家庭内の役割などはこれまでと変わらず、こどもの発熱などの対応で女性に対応し休む事を理由に冷遇される状況は変わらないと考えるため。
- ・男女の共同参画と働き方改革は全く別物だと思う。
- ・男女は関係ないから
- ・男女は不平等
- ・男女関係なく、勤務できる人が勤務している
- ・男女共同参画が進まないのと、働き方改革との関連が分かりません。
- ・男女共同参画が進まないのは「男性ですら」生活しづらい日本の勤務体制自体に問題があるため。
- ・男女共同参画が進んでいないことと、働き方との間に強い関連性はないと感じるから。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・男女共同参画と働き方改革(実際は労働時間の制限)は全く別問題であるから。
- ・男女共同参画と働き方改革による効果が不明である。時短医師の働く場の確保も困難であり実際には変わらないと考えられる。
- ・男女共同参画と働き方改革は関連していないように思う
- ・男女共同参画のことが働き方改革の中で取り上げられているとは思えないため
- ・男女共同参画のために必要な事項を備えていると感じられない
- ・男女共同参画は進まない。働きたくない怠け者は結婚して子どもを産めばよく、働きながら子育てしたい真面目な人間は仕事に専従させられ、子育ては手を抜かざるを得ない。
- ・男女共同参画は不変と考えます。
- ・男女平等にはかならないからです
- ・男性が産休を取れるかどうか分からない。当直を男性メインで回す状況に変化が生じるとは思えない。
- ・男性の方が医療に従事できるから
- ・男性医師の仕事時間が減ることで、産休や育休を検討する女性医師の仕事量も増やさざるを得ないため。
- ・男尊女卑というより権威主義独裁主義の文化が強く残っているから
- ・男尊女卑はなくなるから
- ・地方での医師不足が改善しないとどうにもならない。
- ・直接関係ないから
- ・当科の女性医師は主婦でありもともと9-17時の勤務であるため
- ・当直、待機のしわ寄せは男にまわってくるため
- ・当直や休日出勤をしない人が増えて、今以上に一部に負荷がかかるだけ。
- ・当直残業は、独身者、男性の負担になるから
- ・働きにくくなるだけで、実際の時間的な余裕が出てこないから
- ・働き手の数は変わらないから
- ・働き方と関係ない。文化の問題
- ・働き方の裁量性が損なわれる
- ・働き方改革がどのように男女共同参画につながるのか、現場には伝わらない。
- ・働き方改革が進むことで、一人当たりの業務量が適切に管理されるのであれば、産休や育休をとる女性医師も働きやすくなると思います。しかしながら、そのためにはむしろ全体の医師数は増やさなければならず、そのようにするとは思えません。結果、産休や育休をとる女性医師のしわ寄せは、残りに来るわけで、そういった環境下で男女共同参画は進むとは思えず、進むとしても形式的なものと考えます。
- ・働き方改革で全仕事量が減るわけでは無いので、時短勤務などの医師の割合が増えれば、その分を誰かが負担するだけのことだと思う。
- ・働き方改革で通常病院業務が減る可能性は低いと思われ、現状と大きく変わらないことが予想されるため
- ・働き方改革と男女共同参画は関連がないと思う。
- ・働き方改革によらず、男女共同参画が進むべき分野・職場はすでに行われていると思う。働き方改革で勤務時間が減ったとして、男女共同参画に進むイメージがわからない。
- ・働き方改革により給与の出る時間外労働は減ったが、その分サービス残業が増えている。実質の労働時間には変化がないのでこれでは給与が出ていた分前の方がましである。
- ・働き方改革の実効性と男女共同参画の意識は直結しないため。
- ・働き方改革の名前だけが先行して、実を伴っていないため(根底を覆すような改革が無い限り何も変わらないと思う)
- ・働き方改革の目的は、男女共同参画ではなく、個々人の時間外労働を減らすことだから。
- ・働き方改革の問題はなく、女性医師が増加することで否応なく進んでいくと思う。
- ・働き方改革以前の状態、男女共同参画を妨げているとは考えていない
- ・働き方改革自体が、医師という職業には無理だと思う。
- ・働ける時間が減っているのに、仕事量は増えているのが現状。プライベートに仕事をするしかなくなり、むしろ状況は悪化しています。
- ・働ける人の労働時間が増えるだけ
- ・特に男性の“ワーク”を制限することではなく、特に女性の“ワーク”が容易になるような環境づくりに重きを置くべき
- ・独身者や管理者のみに膨大な負担がかかると思います。
- ・突き詰めれば両者に繋がりがあるのかもしれないが、現時点ではその繋がりがわからない。
- ・日中の勤務時間が減るわけではないので、働き方改革だけで女性の働きやすさは変わらないと思います。
- ・妊娠・出産は女性特有であり、仕事が制限される期間が一定数ある以上、男女の待遇の差はできると考える。「仕事をする」だ

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

けなら進むと考えるが、昇進等、待遇の差は働き方そのものよりも勤務先の理解が必要になると考える。

- ・ 妊娠出産は女性にしか出来ないことであり、そもそも女性と男性が同等の仕事量を働くことには無理がある。仕事量で評価するのが平等なのか、妊娠出産の期間は仕事に従事していたと評価するのが平等なのか？そういった議論も聞いたことがなく、結局のところ現場での不公平感を煽っているだけ。

男性の家事育児参加も言われて久しいが、そこに時間を使える環境(特に上層部の意識)も整っていない。これは世代間における教育の違いによるものであり、そういった教育を受けた現在の若い世代が職場の主力になる、およそ20年後までは机上の空論のままだと思う。

以上の理由から、働き方改革とはあくまで制度の変更であり、意識の変革を必要とする男女共同参画の推進にはあまり影響がないと考えます。

- ・ 寧ろ働き方に差が出ると思います。
- ・ 必ず不均衡がでるから。
- ・ 表面だけ変えても実情をとまなわないから
- ・ 負担を結局誰かが負わなければならないため、全くもって根本的な解決になっていない。
- ・ 副業や申請しない時間外労働が増えるだけで、家にいる時間は増えない。
- ・ 別問題だと思う。私の麻酔科では、妊活や家庭の都合が原因の時短勤務者を排除する動きがありとても悲しい気持ちになった。
- ・ 変形労働時間制へ移行して兼業分の院内就労時間が上乘せされれば、総合的な拘束時間は増加するから。
- ・ 方法が間違っている。
- ・ 本質的な改革とは思えない。
- ・ 無意味な政策。
- ・ 無給業務が増えるだけ
- ・ 預かり先がなければ結局当直はできないのではないかな。
- ・ 両者の関連性がよくわからない
- ・ 連動している印象がないため。
- ・ 労働に見合う収入が見込めない以上、これ以上働きたいという意欲がわからない。
- ・ 労働時間に制限をかけることで男女の差がなくなるとは思えないから。男女の差はあっても仕方ないことだと思うし、だからこそいろんな人が意見や働ける環境を整えるのは大事なことだが、働ける人や、(強制的に働かせるのは良くないが)働かなくてはならない人たちの労働する機会を無くすのは違うと思うし、社会的にも不利になると思う。
- ・ 労働時間の長さが女性の社会進出を妨げる主たる要因であるとは言えないため。
- ・ 労働時間や休暇への対応と、女性労働に対する社会的意識には関連がないように感じる。
- ・ 論点を一緒にすることが間違いだと思う

#### \*\*わからない

- ・ あまり関係ない気がします。
- ・ あまり考えたことがない
- ・ ある程度は進むと思うけど…。分かりません。
- ・ ある特定の業務にその人物が参画できるか否かは、性別のみに因るものではなく、その人物の知識、技術、体力、性格、責任能力、人物を取り巻く周辺環境など様々な要素が絡み合う。男性、女性という分け方をして、女性の社会進出が進んでいない、男女比率を見直すなどの議論をよく目にするが、前述した様々な要素を踏まえた適材適所の考え方で良いのではないだろうか。
- ・ イメージがわからない
- ・ この問題は働き方改革だけでははかれないと思う
- ・ これから判断されていくと思うがまだ実感はない
- ・ これまで職場で働きすぎている人が家事育児にかかる時間が増えれば、そのパートナーがフルタイムで働ける可能性は高くなるだろう。しかし、男女共同参画を進める時に今の日本にとって大事なことは、決して少子化を促進させる方向に向かわせないようすることであり、働き方改革がその役に立つのかどうか分からない。出産から復帰、育児まで国をあげてトータルサポートしなければ日本の未来は暗い。
- ・ どのように影響するのかが分からない。
- ・ まだ浸透していないため
- ・ まだ働き方改革が行われたと実感していないから。
- ・ もう少し時間が必要
- ・ もっと根は深い。



### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ やって見ないとわからない
- ・ 育児、介護など日中にも人手が必要な家事等については働き方改革での勤務時間の制限でも解決は難しいように思うが、当事者ではないため実際のところは分からない。
- ・ 育児中の女性などへの合理的配慮はすでにある程度なされている一方で、これによりさらに参画を拡大する女性が実際は多くはないと感じる。
- ・ 一部進むが、当直業務が可能な人間は限られており、翌日業務フリーは困難と考えられる
- ・ 仮に男性医師の総労働時間が減ったとして、女性医師の総労働時間が増えるのかわからない。
- ・ 家庭でやるのが山ほどあるから
- ・ 家庭の事情などにより働ける時間は各個人で異なるため、当直業務、夜間に勤務できる人とできない人など、皆が同じ業務を行うことは不可能である。そして、現在の医師の働き方のような各個人の自己犠牲精神に基づいた勤務の仕方では支えられている医療が、働き方改革後に同じ形態を維持することは非常に難しく、病院が働き方改革に合わせた勤務形態を構築する必要があると考えるため。
- ・ 改革の内容と遵守できる環境次第
- ・ 皆が働かなくなるため。
- ・ 外勤を含めた就業時間制限は、女医復職支援枠の医師にとって経済的な打撃となるため、実施されないと思われる。
- ・ 関連がわからない
- ・ 共同参画はその他の要因も整備が必要なため
- ・ 業務が変わらないか増加する割に関わる人数が変わらないため、何が変わるかかわからない。
- ・ 勤務としてカウントできない労働時間が増えるため。
- ・ 勤務時間が減っても仕事量が減るわけではないから
- ・ 結局、仕事を家に持ち帰ることになるだけだと思っています。
- ・ 結局のところ今までもこれからも本人次第だとは思うので。
- ・ 結局は何が優先されるかだと思うので
- ・ 結局男性は育休があっても休みづらい。
- ・ 研鑽となるだけで、実質あまり変わらない気がする
- ・ 元々男女で何か違うと感じたことがない
- ・ 現在の職場では仕事の内容が男女で大きな違いがないため
- ・ 現時点で働き方改革が進んでいることが実感できない、むしろ仕事が増えており、働き方改革が進むという前提を想像しにくい。
- ・ 現状進んでいるとは思えないから。
- ・ 個人の意識の問題
- ・ 今まで残業していた男性は家事を増やせるが、そうでない者には大きな変化がない。特に育児中の女医が、働き方改革で労働しやすくなる面は乏しい。
- ・ 根本的な解決策ではないと思うため
- ・ 残業の申告をしづらくなった以外の変化がないから
- ・ 仕事の総量を減らせるのか。例えば当直やオンコールのない日を設けるのか？等が不明。仕事の総量を減らせないのであれば誰かに負担が大きくなる。育児のためある人が当直できないとき、その当直日を誰がやるのか？そこを他の誰かが被ったとしてその人間への働き方改革はできるのか？
- ・ 市中病院の勤務医に限定すれば男女共同参画が進むかもしれません。
- ・ 私の講座は女性医師がすでに活躍しているため。
- ・ 時間制限がかかっても仕事は減らないため。男女においても変わらないから
- ・ 自分の診療科としては全く変化はないと思う。むしろ男女格差は広がると思っている。
- ・ 実感できない
- ・ 実態と乖離する部分がどうしても生じるので
- ・ 社会的な背景は改善できたとして、あとは個人の意向次第と思うため
- ・ 出産・育児はどうしても女性に負担がかかるため
- ・ 女性はライフイベントに左右される傾向が強いので、働きやすいところにしか集まらない。働きにくいところは男性の負担はかわらないと考えるため。
- ・ 女性医師の離職の原因として、働き方に占める割合が決して高くはないのではないかと
- ・ 現在の医師の働き方改革がうわべだけのものだから。
- ・ 上司の考え次第のため
- ・ 職種・職場によって大きく異なると思う。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 職場に女性が少ないからです。
- ・ 進むとは思いますが、不公平感是否めない。意識の改革は進んでおり、個人的にも上記の必要性は常々感じている。ただし当直回数<sup>の</sup>差であったり実際の就労時間の差であったりというのは強く感じる。雇用者からの働いている側の評価が低いと感じる。
- ・ 人員確保が働き方改革に必要だと思うが、それと男女共同参画が結びつくとは思わないから
- ・ 世論・マスコミなど世間の見方・考え方が変わらないと現場は変わらないと思う
- ・ 性別間で勤務形態の差はあって当然。
- ・ 託児所をもっと充実とか、社会的環境の方が寄りそう
- ・ 単に勤務時間だけの問題ではない可能性があるため
- ・ 男女という観点からは実感がない。
- ・ 男女とは関連ない
- ・ 男女の働き方改革と、男女共同参画は別の問題であると考える。
- ・ 男女の役割に直結するか、わからないから
- ・ 男女共同参画というものの自体がよくわからないです。
- ・ 男女共同参画の具体的な体制が見えないから
- ・ 男女共同参画の定義がわからないですが、子育てなどの問題は、家庭それぞれで決めることができないので。
- ・ 少しでも、時短の先生含めサポート体制がなされればいいとは思いますが。
- ・ そもそもマンパワーが足りないので、辞めた人の分は、残った人たちに幅寄せは来ると思います。
- ・ 男女共同参画の定義が不明瞭であり医師の働き方改革(就業時間制限強化)との関連性の考え方がわかりません。
- ・ 男女共同参画を促進できるのかはわかりません。
- ・ 男女参画といえば聞こえはいいが、主に女性医師が不在の時間や処理しきれない仕事を、独身の若手医師や男性医師、あるいは管理職がやむなく引き受けているのが実態。
- ・ 男性社会は日本の保守的な国民性を考えると短期間では変わらないと考えるから
- ・ 直接的な影響は想像できない
- ・ 当院当科については、以前より女性医師は必要時に休みを十分とっている。
- ・ 当直業務有無等で男女間の格差は起こる
- ・ 当方男性だが、女性がどのように働きたいか要望が分からないため、わからない。
- ・ 働き方改革がうまく進むかがわからない
- ・ 働き方改革が女性の社会進出に与える影響が不明
- ・ 働き方改革が表面的なものになっており、実質の労働は大して変化していないため。そもそも、男女共同参画を進めるために働き方改革を行っている訳ではないと思うので。本当に働き方改革が進んでブラックな無茶な働き方がなくなれば、結果として父親の子育て参画が進んで女性が社会に出やすくなるという可能性はあるとは思いますが。
- ・ 働き方改革と女性の社会進出が並行して進むか不明だから。
- ・ 働き方改革と男女共同参画が直接結びつくか不明。
- ・ 働き方改革と男女共同参画の関係がよくわからないため
- ・ 働き方改革と男女共同参画は、また別の問題ではないかと思えます。
- ・ 働き方改革と連動する別な対策が必要と考える。
- ・ 働き方改革による明確な男女の区別が不明。
- ・ 働き方改革をどのように進めるかによって、男女共同参画が前進も後退もすると思えます。
- ・ 働く総数(人数)により、仕事量に変化する可能性があるため。
- ・ 配偶者の就労しやすくなるかもしれないが、自身の仕事の融通が利かない時もあるため。
- ・ 別の問題である気がします。
- ・ 保育施設など後方施設が充実していない中で、勤務したくても勤務出来ない女性の数が減るとは考えられないため。
- ・ 理論的には共同参画が進むと思うが、求められる仕事量を変えないと絵に描いた餅になると思えます。結局は患者が望むだけ医療を提供しなければならないという前提条件を覆す事が出来るかにかかってくると思えます。
- ・ 臨床において、共同参画とはどういうことを意味するか<sup>の</sup>理解が難しい
- ・ 労働時間だけでは決まらない。

#### 助教・女性

##### \*\*思う

- ・ お互いが早く帰った日に家事などを助け合える
- ・ その代わり男性も家事に同じぐらい時間をかけて欲しい。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・パートナーの考え方にもよるが、医師が業務量過多で帰宅が遅くなり勝ちな部分が改善される可能性があるから。
- ・以前と比較すると個人の認識が変わってきている
- ・以前よりは進むと思われるが、人手が足りない部署では、困難と思われる。
- ・意識が変化すると思う。
- ・意識の改革はできていると思う
- ・医師の仕事全体の負担が減ることで、男性医師も家事や育児に参加しやすい雰囲気ができれば、女性医師ばかりが仕事を制限する風潮も変わるのではないかと思うから。
- ・育児との両立がしやすくなると思うから。
- ・育児や家事をする女性が働きやすくなるのではないかと思う
- ・育児休業など取得しやすくなると思います。
- ・育児中の女性もしっかり勤務できる
- ・家事が分担できる
- ・家事などへの夫婦間の考えがより近くなると思うから
- ・家事の分担ができるようになるから
- ・家事をする女性が男性と比べ仕事時間が少ないという理由で受けていた不利益が減るため
- ・家事育児負担を女性医師が主に抱えることにより、キャリアに差が生まれている、また女性医師の立場としても長時間勤務を行っていない立場からは参画しにくい。
- ・家庭で過ごす時間が増え、家事分担ができるようになるかもしれない。
- ・家庭のことを分担しやすくなる
- ・慣習的な時間外労働が是正され、効率的な業務となり、家庭での家事育児の夫婦間の偏りが改善されると期待するから。
- ・給与が確保されつつ、労働時間が男女ともにコントロールできれば可能だと思います。
- ・勤務時間の制限だけではサービス残業が減らないので男女共同参画に却って悪影響だと思うが、きちんと医師一人当たりの仕事量の減量を伴えば、男性医師が家事育児に回す時間が増えることで男女共同参画へ追い風となると思う
- ・勤務時間内で会議などがやれるようになれば女性も参加しやすい
- ・現在は育休や育児のための有給を希望している男性が多く、取りやすくなると思う。
- ・現状では働き方改革と言っても実際の業務量はほぼ変わっていないが、今後の改革に期待したい
- ・仕事で忙しかった人が仕事の時間を家事に充てることができ、今まで家事に追われていた人に仕事をする時間がうまれるから。
- ・思うというよりそうなってほしいという期待。制度的に長時間労働ができなくなるならば、元々長時間労働しにくかった人とそうでない人との働き方の差が減るのではないか。
- ・時間に余裕ができると時短勤務の先生のサポートも理解が得られやすくなるから。
- ・時短でも働く女医が増えることで、日々激務に疲れるフルタイム職員が有休を積極的にとる環境が私の理想です。
- ・時短等を活用し、仕事の分担が進む
- ・主に男性の家事育児時間が増えると、いかにそれらが大変であり大切かが実感できると思うので、ママさん女性医師への理解が進むことが期待できる。
- ・就業時間が家庭の事情のある方とない方で変わらなくなるので参画したい人が参画しやすくなる。また、一人当たりの仕事が偏っていた分を新しく参画できるようになる人で賄うことになるため、結果的に男女共同参画が進む。
- ・女性だけでなく男性もライフを充実させていくべきで、実際にそうした意識も上がってきているように感じる、男性も休むことがあれば女性が休むときもお互い様という気持ちで協力していけるだろうと思う、ただし実際には、女性は子供のために仕事を休むことがあっても実際には休まっていないと感じることはある
- ・女性の社会進出には男性の家事・育児が必須であるから
- ・女性の働き方への改善では歪みがあるので
- ・女性の負担が減ることが期待される（家事、育児、介護など）
- ・女性医師はパートタイマーが多いが常勤で無理なく働けるようになると男性医師の働き方改革も進み全体的に良くなるはず
- ・少なくとも若い世代では改善されると思う。高齢男性医師は変わらないと思う。
- ・進んで欲しいという、希望です。
- ・性別に関係なく仕事と家庭のバランスを取りやすくなるため。
- ・性別役割の固定概念を解くことができる
- ・全員の労働時間が短くなる
- ・男が早く帰宅して、家事育児をすれば、女も遅くまで仕事ができる日がある。
- ・男子が家に帰る、男子が家事育児を自分ごとと考える風潮が高まれば、必然的にそうなる。ただし、昔に育った上司の価値観は動かないので、世代交代を待つ必要がある。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 男女、子供のいるいない、にかかわらず、全員の就業時間が短くなれば、男女共同参画は進むと考えるため(期待をこめての回答です)
- ・ 男女で労働時間や条件が同じだから
- ・ 男女ともに介護、育児の問題は共通であるため
- ・ 男女ともに仕事を分担する意識が進むため
- ・ 男女ともに労働時間が減るから
- ・ 男女の家庭内の時間が均等になる
- ・ 男女共同参画が進まざるを得ないと考える。
- ・ 男女平等に、家事ができるようになると思います。
- ・ 男女問わず時間外(17 時以降)に緊急以外の業務は行わない、という状態が常識となれば、これまで育児、介護で 17 時終業で勤務していた勤務者が特別で無くなる。17 時終業で後ろめたさを感じなくてよい。時間外に残って勤務していた勤務者も不公平感を感じなくて済む。
- ・ 男性が育休を取ること自体は必要
- ・ 男性が育休取得などしやすくなり、そのぶん女性が働きやすくなると思うから。
- ・ 男性が育児に参加できる時間が増える。
- ・ 男性が家事、育児を担ってくれる可能性があるため
- ・ 男性が子育てに関わる時間が増え、子供を育てながら働くことの男女間の相互理解が進む
- ・ 男性の「ライフ」への参入が進むことで女性の「ワーク」への参加を増やせるから
- ・ 男性の家事労働などを増加させ女性の家事労働時間の減少できるのではないか。性別による役割をなくしていくことで共同参画が進むと考える。女性管理職増加による労働者の意識改革と日本の現状を革新しないと世界に追いつかないため、働き方改革で今の 60 歳以降の経営者の意識を変えることにより共同参画が進むと考える。
- ・ 男性の長時間労働(家事育児に時間を避けない状況)がパートナーである女性の参画を妨げていると思うから。
- ・ 男性も 1 日の中の仕事以外の時間を確保して良いという風潮になるから
- ・ 男性も休みを取りやすくなる
- ・ 男性も女性も平等に休むことができるから。特に、なんとなく育児家事は女性の仕事とされていたものが、男性も有給を取得できることにより多少は役割が以降することが予想されるから。
- ・ 男性も早く退勤して家事をするものだということが少しは浸透すると思われるため。
- ・ 男性医師が育児に割く時間を増やし、代わりに配偶者である女性医師の勤務時間を確保できる可能性がある。
- ・ 男性医師が早く帰れる
- ・ 男性医師もライフワークバランスを意識するようになるため
- ・ 長時間労働は良い事で、長時間働けば他の家庭の問題などの面倒ごとに関わらなくて良いという考え方の人が少なくなりそうだから。
- ・ 定時帰宅が増えれば男女ともに家事育児に参加しやすくなる
- ・ 定時内なら働ける女性はたくさんいるから
- ・ 当直した医師が平日休んでくれれば、よいと思います。私は第 1 子懐妊し、退職になりました。産後当直や診療できない期間も診療継続できる体制をつくるのは妊娠した医師ではないと思います。
- ・ 働き方改革の推進によって、長時間労働が医局の戦力という考え方が変化し、なんとなく帰れない雰囲気、毎晩のように医局に残り続ける医師はいなくなったと思う。一緒に子育てを楽しむ若い夫婦が増え、男性医師も子どもの入学式に参加する(できる)ようになった。そんな変化の中で、子育て中の女性医師にも居場所があり、働きやすくなったと思う。
- ・ 働く世代が減少しているので、性差にとらわれないシフトでやっていかないと労働力が得られないため
- ・ 夫の職場の認識変化を感じるので
- ・ 夫側(男性)の職場で週に数日でも定時帰宅できれば、妻側(女性)は週に数日でもお迎えの時間を気にせず働くことができる
- ・ 平等に近づけていく意識づけになるため

#### \*\*思わない

- ・ あまり関係ないように思います。
- ・ いままでも変わっていないし、言葉だけの変化のように感じる。
- ・ サービス残業が増えるだけ
- ・ 働き方や意識改革をすべきなのは、働く女性の配偶者だが、根本的に何も変わっていないから。
- ・ もともと根付いていた意識はそう変わらない。
- ・ ワークライフバランス自体が悪化しているので、子育て中の女性医師が大学病院や民間病院でフルタイム勤務を継続する事や、

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

キャリアを継続する事が益々困難になると思われる。パートや非常勤が増えるのではないかと考える。実際に、これまでならフルタイム勤務を継続していた男性医師でさえ、パートや非常勤に転職している。

- ・意識づけの方が重要だと思うので
- ・医学界の男尊女卑的な認識、慣習が変わらなければ、労働時間が減っても、女性の負担は変わらないと思うから。
- ・医師同士の夫婦の場合、女性の方に家事や育児の負担が偏ることは、働き方改革が行われても変わらない。子供の病気などのために休むのは全て女性で、料理を作るのも女性、女性が自分の仕事を犠牲にしている状況は変わらない。男性医師本人、職場の共通理解が必要である。男女共同参画と言うのは簡単だが、病児保育に子供を預けてまで働きたいと思う親がどこまでいるのか、仕事を休めないでそうせざるを得ない状況になっているのだと思う。子供が病気になったら、休める職場の環境作り・意識改革が必要である。
- ・育児で働ける時間に制限があるのは主に女性であるという状況が変わらない限り、男性や未婚女性に負担が行く現実は変わらないと思うから。
- ・育児にかかる費用の軽減などが改善されないと難しいと思う。
- ・育児や介護などのサービスの向上のほうが大事だと思う。
- ・育児や出産など生物学的に平等にすることは不可能。退職者を穴埋めする周囲の人が給与面で補填されるなどあれば公平感は増すと思う。
- ・育児休暇が明けても、女性医師は結局時短勤務を選択してフルタイムでは働かないことが多いから。
- ・何が改革されようとしているのか分からない
- ・家事は女性が担うという日本の社会通念は変わらないから
- ・家庭のことは依然として女性が負担しているから
- ・家庭は女性が主という意識が変わってはいない
- ・改革が進んでいない
- ・患者が減らない限りは仕事は減らない。誰かがサービスで働くことになる。
- ・環境が整っても、(性差関係なく)仕事やりたくない人は結局やらないので劇的には変わらないと思います。やらなければならぬ業務量も結局減っていません。
- ・関連はない。
- ・企業をみても日本ではまだ男性が優位な状況だと思うから。
- ・急には出来ないから
- ・業務の総量は減らないから 時間外をつけずに働くしかない
- ・勤務時間が減って出勤者が減ればそれだけ1人にかかる仕事量が増えて、さらに忙しく大変な仕事になるからやりたくない
- ・勤務実態がすぐには変わらない気がする
- ・形骸化しているため。実際は異なる
- ・結局、人の認識は変わらない。
- ・結局、忙しい人は休めないと思います。
- ・結局は男社会なんだと感じています。
- ・結局今でも働く人は働いて昇進するから。働かない女性に管理的な立場に立って欲しくない
- ・元々男女差がない仕事のため
- ・現在の上層部の代替わりがないと上層部の意識が変わらないと思う。
- ・現在の体制では家庭における女性の負担は変わらない。
- ・現実の仕事量は変わらないから。
- ・個人の意識の差が大きいように思う
- ・個人の意識の問題が強いと思われるので
- ・個人の性格によるから。
- ・古い考えをもった上司や同期が変わらない限り難しい
- ・考え方変えないと意味ない
- ・今の改革は休んだ人の代わりに誰かにしわ寄せがきているだけに感じている。人数が増えなければ意味がない。
- ・今の働き方改革は育児をしている女性にはある程度優しいかもしれないが未婚・育児前の女性や男性に対する配慮が少ないと感じてしまいます。
- ・根本的な解決にはならないからあまり変わらないのではないかと思う
- ・根本的に女性が社会にでられる環境ではないため
- ・最終的には個々の意識の問題だと思うため
- ・子供がいる女性は当直しにくい。当直する、しない、夜遅くまで残れる、残らないは、今後も変わらないと思うから。勤務時間の

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

短い女性は、評価されない。

- ・ 子供を理由に復帰しない人は、働き方改革と関係ないから、子供がいても、きちんと働く人たちなら、意義はあると思う。
- ・ 子持ち女医の当直免除などは医局・診療科によってルールが異なるため。私は3歳の子供がいても当直していますが、夫の職場は子どもがいれば何歳まででも当直しなくてよいので、夫のような男性医師に嫉妬が来て、それはさらにその男性医師の家庭にも嫉妬が来ます。
- ・ 時間のみ変えても、意識改革は進まない
- ・ 実際の労働時間が減少する見込みはなく、今までより家事育児に時間をさけるようになる人が増えることは期待できない。結局家庭内業務分担のアンバランスは改善しない。
- ・ 実務的な改革が進んでも、男尊女卑の意識改革はまだ進んでいないため。
- ・ 所属機関は子育てしている職員の支援システム自体は他大学と同様にそろっているものの、現実的に運用できる状況ではなく、とても息苦しい環境です。さらに外勤も制限されて給与も大きく下がる状況だと、経済的に立ち行かなくなるため、実家などの支援があり資金に問題がない人しか大学教員を続けることが出来なくなります。
- ・ 女性が家のことをやる風習が残っている中で実際家のことのために仕事をセーブせざるを得ない。そんな中、独身女性や男性はその分の負担がかかっている状況。
- ・ 女性が子育てしながら安心して働く環境が整っていない
- ・ 女性にとって良い環境になるとは思わない。
- ・ 女性の方が現場から離れる期間が多い
- ・ 女性医師が働くための環境が充実していないため
- ・ 上記のようにしわ寄せが生じることで、女性の参画に対してのネガティブな意見が増えている。
- ・ 上司は、自分の都合、好ききらいで人事を決めている。そのようなことをしていると、辞める人は、増える一方になる。
- ・ 上層部の意識が変わらなければ働き方改革に関係なく出産などで女性の社会復帰は難しそうです
- ・ 職場の上位は男性が占める割合が圧倒的に多く、組織自体の考え方が変わらないから
- ・ 人の意識が変わらない
- ・ 性差は仕方ない
- ・ 性別によらず、それぞれの性に対する偏見はこれからも続くと思われるから。強制的に病院システムが変わらないと変革は難しい。
- ・ 全く別物。
- ・ 双方の理解がないことには進まない。
- ・ 男が家事をしないから。家事をしない男が教授・部長だから。
- ・ 男女とは関連のない事項であるため。
- ・ 男女の差は働き方だけではないと思うから
- ・ 男女の働き方の違いが変化することには関わらないと思うため
- ・ 男女間の差はなかなか埋まらなれないと感じる
- ・ 男女関係なく、ライセンスを持っている人が互いに補完し合いながら、みんなで仕事を分担、助け合う意識がないと、結局頑張る人だけが頑張り、しない人はしない体質は変わらないと思う。頑張りたくない人は、むしろこの改革を盾にして、より仕事をしない人も出てきそう。様々な男女比が変わらないのは、制度の問題だけではなく、個々人の意識の問題と思う。
- ・ 男女関係なく働かない人は働かない。むしろ何もできないのに研修医の給料が高いことからその後勘違いしたままの医師の数が増えたことが問題
- ・ 男女共同参画が進むためには、現在マイノリティである医療従事者のキャリア女性が相対的に増えることが必要で、働き方改革のみではそう簡単には変わらないのではないかと考えているため。(超長期の視点で見れば、進む可能性はあるかもしれない)
- ・ 男女共同参画と言っている時点で、女性と男性を別のもので区別しているから。意識なくできなければ、改善しないと思います。
- ・ 男女共同参画に影響があるとは思えない
- ・ 男女共同参画は勤務時間に依存するものでもないと思うので。
- ・ 男女差を感じないため
- ・ 男性の育休取得希望を聞く機会が多いので、男女というより立場ではないでしょうか。
- ・ 男性の家事育児意識が低すぎる
- ・ 男性の仕事の仕方が変わらないと変わることはないと思う。
- ・ 男性は出産・育児を経験しない。そういった意味で、女性は必ず、出産・育児を通して、仕事をストップせねばならない。身体を保つためにも、3年の育児休暇などを必ず取得といったことの取り決めや、その間におけるその方があけていた仕事のフォロー

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

など、制度が無い限り男女共同参画は難しいと考えます。

- ・ 男性も育休を取ったりすると、その分他に働く人が必要だから。
- ・ 男性や単身者に負担が大きくなっているように感じる
- ・ 男性優位社会を抜本的に改革しようという国の姿勢が見えない。全て表面上やっていますよとしたいだけのように見えます
- ・ 男尊女卑の考え方や女性が家事・育児をやるというイメージと働き方改革は関係ないから
- ・ 男尊女卑の社会なので
- ・ 働き方改革が進んでも意識の改革は進まないから
- ・ 働き方改革が男女共同参画をどのように推進できるのか全くイメージが湧かない。
- ・ 働き方改革でどうなるものではないと思う
- ・ 働き方改革で男女共同参画がすすむ根拠が全くない
- ・ 働き方改革で変わったことといえば給料だけで、働く時間が変わってないので女性には不利。
- ・ 働き方改革と日本の男女共同参画が進まないことは全く別の問題。だから働き方改革をしても男女共同参画にはつながらない。男性上司がこれまで同様女性医師には手術はやらせない、キャリアアップにつながる仕事を女性医師にはさせない、男性の仕事をサポートするような仕事だけを女性医師に回すということをしている現状では何も変わりようがない。
- ・ 働き方改革は長期労働の対策であって男女共同参画を主旨としていないから
- ・ 日程、回数に関してはまだ障壁があると感じるため。
- ・ 日本の教育、文化の問題。時間がかかると思う。
- ・ 妊娠出産した女医だけでなく、育休をとる男性医師も増えてきているが、その仕事を誰がカバーしているのかの観点が抜け落ちている。育休をとった男性医師の仕事を肩代わりしながら自分も妊娠し(まだ安定期前で言えない時期)つわりの中毎週救急当直に行ったこと、流産した直後も仕事量が変わらなかったこと、悔しくて絶対に忘れないが、働き方改革でひとりに当直が偏るとよくないから、とか男女関係なくみんなで助け合わないと、という謎の押し付けで断る選択肢がなかった。  
男女共同参画をうまく使って楽をしようとする人や「産んだらあがり」のような働き方を希望する人への対策も考えないといけないのでは。制度を性善説的に考えすぎている。
- ・ 不妊治療中の女医への考慮は全くなされないままなので、このままでは変わらない。妊娠・出産・育児ばかりに光が当たり、不妊治療のことを考えてくれることが今までのところない。
- ・ 両者はまったく別物だと思われるので。男性の労働時間が少なくなると家事をやってくれる、ということでしょうか？そうは思えません。

#### \*\*わからない

- ・ すでに半数以上が女性医師の職場なので、これ以上の変化はないと思うから
- ・ まだ実感できない
- ・ 意識改革が難しい。
- ・ 医局員が増えていないのに、終わらなかった仕事を誰が負担するのかわからない。
- ・ 医師じたいの男女差に対する認識がまだまだ低い。それを担保するシステムがまだまだできていない。
- ・ 育児や介護のない者は代行状況になることに、変わらない。
- ・ 育児や介護や仕事に対する比重考え方は個人で違うと思うので、働き方改革を進めて女性の社会進出をすすめようという流れをつくっても結局は個人の考え次第だと思う。多様な働き方を受容できる社会づくりが大事と思う。
- ・ 家事の分担は各家庭によるように思うから
- ・ 改革を考えている方々の世代が高く、実際の現場での声がどれだけ反映されるのか分からない。
- ・ 休む人と休まない人が明確にわかっただけ
- ・ 勤務時間短縮と休みは違うと思うから。病児保育などが増えないと結局女性が休みをとることになると思う。
- ・ 結局本人の考え方と周囲の接し方による違いが大きく、制度が変わったからといって結果が変わるかはわからないと思います。
- ・ 現場での考え方の変革が必要であるため
- ・ 現状でも男女参画はされていると思うから。
- ・ 個々の休みは取りやすくなると思うが男女共同参画としての変化は予測困難
- ・ 個々の認識や価値観が変わらないと、結局何も変わらないかもしれません。
- ・ 個人の考え方による部分も多いと思うため。ただ、この10年働いてきて、男女問わず世の中の働き方や家庭内の役割分担の変化は実感している(患児のことをよく把握している父親が増えたとし、受診に付き添う父親が増えたと感じる)。
- ・ 今のところ子供の急な体調不良時に早退する男性医師を見たことがない
- ・ 今のところ働き方改革に性別との関連を感じないため。
- ・ 根本は別の問題

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 根本的には、男女とも平等に家事と仕事をしても良い、という社会通念が必要で、それには幼少時からの教育が必要。少なくとも同世代以上(30代以上)にその意識はない。次の世代に期待します。
- ・ 子育て中の身としては、働き方改革が進んでもなかなか就労制限は変わらないため。
- ・ 子持ち医師が、シッターを使って働く事を優先すれば参画はすすむ。しかし、誰もが、子持ち医師を理解してくれ、受け入れているわけではない。その立場にならないと理解されない
- ・ 施行されてみないとわからない
- ・ 私は配偶者がそれなりに配慮されている所で働いていても、子がいなかった頃のように働いていないので、男女共同参画と働き方改革がどこまで結びつかは疑問です。
- ・ 時間の使い方は人それぞれだから
- ・ 次元の違う話だと思う
- ・ 自分は専業主婦になりたかったが、それでは生活が成り立たず、働いているため。
- ・ 実態に則していないから
- ・ 社会全体の意識としては変わっても、医療職は現場での仕事が主になると思うので。
- ・ 女医がやめると直接あんまり関係ない気がします
- ・ 女性の家事負担の割合が変わらないから
- ・ 女性医師が働きやすくなるための改革ではないので、むしろ男性医師が頑張りすぎなくて済むようになるかもしれない。
- ・ 詳細が不明なので判断できないため
- ・ 仕事全体の量が減らずに時間の規制だけが厳しくなっているので、家庭を理由に遅刻早退や有休取得をする人は働きやすくなり、そうでない人はむしろ負担感が強くなる。こうした不平等感のある制度では真の男女共同参画が進むとは思えないため。
- ・ 上級職などの意思決定地位における女性の参画推進は働き方改革のみでは促進できない
- ・ 職場の意識改革が必要だと思うし、自由に時間を使える独り身の女性は、家庭や介護のある女性とは時間の使い方が比較できないし、無理だと思う。
- ・ 職場や働く個人の意識改革が進んでいないから
- ・ 制度が進行して現実に即していないから
- ・ 制度に加えて各職場の環境整備がどこまで進むかによるため
- ・ 責任ある立場にいる女性の数が変わらなければ、本当にお互いの立場を理解した改革にはならないと思うから。
- ・ 前任地ではいいかげんな女医がいたので。
- ・ 全員が時間内に仕事が終了すればよいが、仕事が減らない以上時間外に就業する人が必要であり、その人たちに妥当な追加の給与が支払われないと、不公平さを感じることに繋がり、女性や短時間勤務に就業する人が働きづらいと思う。
- ・ 他にも改善すべき点や制限などがあるため
- ・ 大学で働く女性医師が働きやすくなるとは思えないため
- ・ 男女が働ける時間は近づくかもしれないが、周囲や当事者の意識は別問題なので
- ・ 男女の働き方の差は減っていても、根本的人不足は解消しないから。
- ・ 男女共同参画と働き方改革は関係ないと思うから。個人の問題だと思う。
- ・ 男女共同参画にはまた別の視点が必要だと思います。
- ・ 男女共同参画の整備は別問題と思われるため。
- ・ 男性が家庭に入ることに抵抗感がまだ強い、出産に伴う心身の負担は女性
- ・ 男性の業務縮小で女性の負担は増えると思う。
- ・ 男性の勤務時間が減ったとしても、自宅で自己研鑽や業務時間が増えるように思うため。
- ・ 男性医師・管理職医師の意識次第だと思うから。
- ・ 長時間労働していた医師分のカバーするため時短勤務をしやすい環境になると女性出産・育児後の職場復帰のしやすさにつながると思うが、男女共同参画と言えるレベルかはわからない。
- ・ 直接的に関連するかどうかは不明だから。
- ・ 働き方改革がどのように進むかによって男女共同参画は進むかどうか、決まると思うから
- ・ 働き方改革が現在勤務する病院において、どのように女性に(とくに子育て世代の女性)メリットとなるかがわからない。
- ・ 働き方改革というものがあやふやで、よくわからない。
- ・ 働き方改革によってすぐに女性の昇進がすすむとは思えない。
- ・ 働き方改革の問題というよりは意識の問題
- ・ 同一の問題ではないと思うから
- ・ 日本人の考え方が根本的にかわらないと進まないと思うから
- ・ 普段休みの日にも積極的に家事や育児に参加しない人はそのままの可能性が高いと感じるから。



### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・様々な家族・個人の生活背景があり、働き方改革だけで男女が共同して仕事において活躍できるとは限らないと思った。
- ・様々な制度や残業をなくす取り組みがされても快くこれらの制度を実施しないと使用しない。また男女共同参画については男性だけでなく女性の考え方、年配者の考え方を改める必要がある。
- ・労働時間だけに重きをおいてもあまり効果はないと思う。
- ・労働時間以外だけでは解決できない問題が他に存在する

#### 医員・男性

##### \*\*思う

- ・もっと家事をできる
- ・ワークライフバランスが改善することにより、家事育児の分担状況が改善すると期待される。結果として女性が社会的活動に貢献しやすくなると考えられる。
- ・医師の男女比を見れば明らか。
- ・医者一医者夫妻にとっては働きやすい環境となるから。
- ・育児と仕事の両立のハードルが下がると思います。
- ・育児や家事にかかわる時間がとりやすく急な対応が可能になる
- ・一人の労働時間は減っても、業務が減っているわけではないから、男女ともに使える人材は使わざるを得ない状況となっていくから。
- ・家事に男性が参画する機会が増える
- ・家事に費やせる時間が増えるため
- ・家事育児のために男性が早退・休暇を取りやすい雰囲気が出れば、その分女性がカバーする場面も増えると思う。
- ・家事育児を分担できる
- ・家庭での時間が男性でも確保できれば女性の就労につながりうる
- ・義務できまれば当然変わると思う
- ・給料が減って男も家事をするようになる
- ・共働きをしないと家計の維持が困難になると思われるため
- ・勤務時間が管理されれば、男女ともに家事育児に参加しやすくなると思います。
- ・今は、好きだけ働ける男性が有利だから
- ・在職場時間が減少するため、仕事・家事両面において配偶者との分業が必要となるため。
- ・残業や時間外の対応が減ることにより、男女とも育児にさける時間が増えると思います。
- ・仕事の分散が行われるから、性別関係なく参加できるから。
- ・子育てしている家庭でも時短で仕事しやすくなるから考えるから
- ・時間の使い方を工夫することができる
- ・時間外を減らすことで、育児や妊娠中の女性も気兼ねなく仕事できるから。
- ・時短勤務をしている女性(あるいは男性)に対する偏見が改善していき、シフト時間ごとの区切りが他の常勤の医師も含めて守られるようになれば良いと思う。男性の育児休業は現状ほとんど取れていないが、改革が進み取得が当たり前の世の中になってほしいという希望はある。
- ・自由時間が増える余地がある
- ・女医が、働き辛いのは勤務体制が無茶苦茶だからだ。循環器内科をやりたいのに他科に行く女医を何人も見た。
- ・子供がいるのに、無茶苦茶な時間外労働なんてできるわけがない。(大学病院はほとんど強制的な労働を命令している)
- ・女性がフルタイムで働きやすい雰囲気になると思います。
- ・女性だけでなく、男性も家事、育児などに貢献できる時間が増えるのではないかと思うから。
- ・女性の人生設計に配慮するようになったから。
- ・女性の働きやすさにはつながる可能性は否定できない
- ・女性医師の働き方は旧来に考えると圧倒的に柔軟になった。男性医師の当直・オンコールの制限や免除等はあと 10 年くらいかかりそうな感覚。
- ・女性医師は妊娠出産しやすい勤務ができるから。
- ・職場雰囲気の改善が期待できるから
- ・男女ともに子育て等に使える時間が増加し、それに伴い男女が協力しやすくなるはず
- ・男女とも労働時間が減り、男女の労働時間の差が少なくなるから。
- ・男女の仕事内容が平等化することで、女性の仕事参加の重要性が増してくる。
- ・男女の労働時間が比較的均一化されるから。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 男性、女性それぞれがより尊重されると思われるから。
- ・ 男性が家で過ごす時間は確実に増えるため
- ・ 男性が家庭生活で担う役割の増加に期待できる。
- ・ 男性が長時間労働する文化も徐々になくなっていくと思おう。
- ・ 男性の育児などの分担割合が増加すると思うから。
- ・ 男性の育児休暇などへの理解が進みやすい
- ・ 男性も育休を取れたり、女性の仕事への時間拡大に繋がるのでは？
- ・ 長時間労働が減れば、女性医師がもっと活躍しやすい。

#### \*\*思わない

- ・ そもそも女性が少ない
- ・ バランスをとっても結局当直などを回さなければならない。当直明けを休みにしなければならないとなると現場が回らない。ただそれだけです。当直をする人間はもともと限られているし。
- ・ やはり男性に皺寄せが来ると思われるため
- ・ やはり男性の仕事配分は多い傾向はなかなか変わらないと思う。これは仕方がないことではないか。
- ・ 意識の問題の部分が多いと思うから。業務時間の均等化や育休などの申請がよりしやすくなるなどは後押しにはなると思うが、意識が働き方改革だけで全ての世代に意識が浸透するとは思えないから。
- ・ 医師カップルのサポート体制が皆無。子供が発熱していても託児できる施設を作るべき(コロナ禍前は存在したが消失した) 結局どちらかが負担を被るが、医局の意識が昔と全く変わらないので意味がない。休みやすい医局は妻側なので妻がいつも休む。(他学の同期の医師は夫が休む場合もあるそうだが結局所属する医局がルールを守らないと恩恵を受けられない) 医師カップルでなくても子育てしづらい。
- ・ 各大学の医局に罰則付きで強制的に休ませるルールを作る。結局医師が休みたくても休めないのは患者数が多すぎる、医師の在り方、同意書確保やカルテ記載のルールが細かくなりすぎており無駄な時間が多すぎるためだと思う。患者数を制限すれば病院の経営が傾いて長期的には経営破綻もするため国家や自治体レベルでの費用面でのサポートが必須。または日本の医師の人数を増やして医師の給料は下がるが多くの労働力を得ることで休む。その場合おそらく医療の質は大きく下がる。
- ・ 医師の嫁が育児で勤務に復帰できてない。業務時間短縮くらいでは難しい。
- ・ 医療に通常の男女共同参画を当てはめるのに無理がある
- ・ 医療の提供に必要な医者の人数が減った訳ではない。女医が休みを取りにくい、復帰しづらい理由の根本的解決はできていない。
- ・ 育休などは女性に多いから
- ・ 育休は男性が取りにくいのは変わらない
- ・ 一般的に医療職は女性の比率がやや高く、十分に男女共同参画は達成されている。働き方改革は関係ない。
- ・ 家事を含む全ての仕事は、男女平等にすることが事実上不可能だから
- ・ 改革が進もうが、進まなかろうが、女医の勤労意欲は変わらないため。働きたい人間は働き、働きたくない人間は働かない。
- ・ 管理職レベルの人たちの意識が変わるかどうかがの方が影響が大きいと思っている。
- ・ 関係性はなさそう
- ・ 休暇が取れないもしくは休暇を申請しながら休日出勤している実態
- ・ 業務内容量が変化しないと思われるため。
- ・ 勤務時間の厳密な管理により女性医師の短縮勤務がより厳しくなっている
- ・ 勤務時間はいくらでも抜け道がある。子供がいる世帯ではどっちも家庭を重んじると医療従事者としては急な欠勤相対等があり、職場の人手不足を考慮するとどちらかは絶対に欠勤しないようにしなくてはならないため
- ・ 形骸化しているから。
- ・ 結局、産休や育児休暇で男性医師の負担が増えるから。働き方改革を理由に早く帰宅する女医が多いから。
- ・ 結局、男性医師の勤務時間が増えるだけだから
- ・ 結局は男性へのしわ寄せ。
- ・ 結局女医さんの復職を支援して時短復職だの当直免除だのの制度ばかりが充実して、男性医師にしわ寄せが来るから。
- ・ 雇用形態に柔軟性がなく、経営側も医師の善意を搾取しているだけでその気がない。
- ・ 今の時点で仕事上の差別化は無いから
- ・ 根本的に男性医師の家事育児参加には意識改革が必須。あまった時間を男性医師が家庭のために使用しなければ女性医師の負担改善にはつながらない。
- ・ 仕事内容が減るわけでないから。また勤務時間を形だけ制限して、勤務実態は変わらないから(給料が下がる分悪影響しかな

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

い)

- ・子どものスケジュールが変わらないから
  - ・子育ての環境や介護の環境を含めた改革を併用して十分にすべきであり、時間統制を中心にした改革だけでは不十分と考える。
  - ・子育て中の夫婦はもともと時短勤務が認められており、そこに働き方改革を進めたら時短勤務が認められない場合が出てくるだろうから
  - ・私立大学病院では、そもそも働き方改革が進んでいない
  - ・自分のすべき仕事量が変わらないため
  - ・実態に即していない
  - ・収入が減り共働きは進むかもしれないが、家庭内のことは中々進まず。育児などの分野に関しては慢性的な人材不足でもあり、その人数が充足しないことには子どもを預けることは困難。家庭を支えられないのでは男女共同参加の夢はただの夢に過ぎない。
  - ・女性の育休産休が増えることにより、男性医師や未婚女医への業務負担が増えているため
  - ・女性の労働環境は働き方以前に妊娠出産の問題があるため。
  - ・職場全体の環境が変わらないため
  - ・生活スタイル、住所、通勤時間、育児家事にしても、同じ条件に近い人だとしても、元々何もかも均等に出来ない。均等当たり前という認識が強い人ほど不平等を感じるはず。毎日当該科の当直がいない病院で入院患者を担当する若手医師は、重症患者がいると常時オンコール状態に近い精神的なストレスを抱えながら働かないといけなくも関わらず、呼び出しが無い限りオンコール手当をくれない病院が多い。携帯握りしめて自宅で家事育児したり、病院までの間で買い物するにとどめて休暇も我慢して生殺し状態で過ごしているのに手当してくれないなら、免除される科や一部の人が羨ましいと思って当然。育児も大変だがオンライン診療とか、何か分担頂けるシステムがないものか。高齢の医師は当直免除されるのは仕方ないと思うが、若手ばかりを当直や救急のシフトに入れ、明けも帰らせてくれない病院もある。度々腰痛か仮病か分からない理由で当直に入らない、急に休む同僚が居ると日々負担が増えてモチベーションがさがる。個人情報やらモラハラの壁があり詳しく指摘出来ないからこちらは泣き寝入りだが、公明正大に大義名分を持って休んでくれないと負担が増えてしんどいと疑心暗鬼にもなる。休む権利も分かるが働かないぶんだけ、一定以上のしわ寄せがきたスタッフに給与や手当が回されてると分かる透明性ある給与体制がほしい。
- 育児や家事、介護をするため定時以内で働く方が増えたら、時間外対応や当直の負担が増えるが勤務手当では増えない。
- ・積極的に参画をしたいという女性は限定的であると思われるから
  - ・男の仕事が増えるだけ
  - ・男女共同参画と働き方改革の連動する理由がわからない
  - ・男女共同参画の意識改革が進んでいるとは思えないため
  - ・男女共同参画は働き方改革だけでは不十分。
  - ・男性の育休など取れる雰囲気がないため。
  - ・男性の育休取得が増えなければ共同参画は進まないが、システムがいくら変わっても、上司の意識が変わらないと意味がない。しかし手術手技など臨床技能と症例経験数が比例する部分も多いので、もともと育休取得には心理的ハードルが高い。さらに多くの上級医は男性育児に対する理解が乏しいので、余計に育休取得できない環境にある。
  - ・男性の育休取得に対して偏見はなくなると期待する。
  - ・男性の荷重が減るとは到底思えない
  - ・男性の長時間時間外労働に変化がないため
  - ・男性育児への世間の理解が低いため。
  - ・長時間勤務可能な人間に業務が押し付けられ、これまで以上に不平等になっているため
  - ・働き方が問題ではないと考えるから
  - ・働き方は改革されていない。悪化させているだけ。
  - ・働き方改革だけでは不十分と思う
  - ・働き方改革と男女共同参画がどう繋がるか不明です。女医が倦厭される問題は医師不足、大学の資金不足で人を雇えないことによるところが大きいので根本が解決しない限りは男性を優先して雇うのは変わらないと思います。
  - ・働き方改革を名目に、育児などのために、ますます女医の先生方が仕事ができなくなるとなれば、男性医師がその分の仕事をカバーしなければならなくなるという状況が容易に想像できるため。
  - ・日本の制度が追いついていない
  - ・日本人は変化を好まないでから
  - ・無関係。保育園入れないから、妻は働かない。その分は稼がないといけなくない。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・明けに余裕ができて、事務作業、教育、研究など時間が使う形になり、結果的に労働時間の根本的解決になっていない
- ・労働力の不足分が男性医師にかかるから。
- ・郵寄せは結局男性に来やすいため

#### \*\*わからない

- ・イメージが湧かないから。
- ・それを実践するかどうかは、男性、女性、それぞれの意識改革が重要であって制度改革ではないから。
- ・まだ変化を実感できていないため。
- ・医師の診断治療のような個々の現状を把握するプロセスが不十分、効果の検証が不十分
- ・育児休暇の取得など、男女関係なくとれる風土を形成できるかにかかっていると考える。
- ・改革のシステムによるため
- ・繋がりがいまいち分からないから
- ・今よりは良くなると思うけれど、完全に同じにはなり得ないので、どこまで進むかは分かりません。
- ・今後次第
- ・時短の方は結局当直はできないから
- ・実際女性の社会進出はあまり進んでいない
- ・女性は働きやすくなるが、男性にしわ寄せが来る可能性があるから。
- ・女性医師、特に子供のいる場合は、仕事の時間が減った分を家事に回すから。
- ・総合病院/大学病院の業務負担はあまり変わらないため。中～小規模病院は多少進む可能性があるため、「分からない」とした。
- ・職種による
- ・人員が減る中、全体の業務量が変わらないので、業務時間を減らしようがない。
- ・単純な労働力の確保が難しくなると思われるがそれが男女共同参画につながるか不明
- ・男女に関係があるかという理想的にはあるのだろうが現実にはあまりないと感じる
- ・男女共同参画の認知は増えると思う。
- ・男性が、女性が、と言っているうちはだめ。性別に関係なく、出産や育児に関係なく、平等に休めるようにしなければ、恩恵を受ける人の裏で犠牲になる人がいる。必ず反発が起こる。
- ・男性が子育てのために休暇を取りづらい雰囲気はすぐには変わらないため
- ・男性の働く時間も減るため。
- ・定時で全員が帰宅できるなら可能と思います。
- ・働き方の問題ではないのでは
- ・働き方改革、男女参画は診療科に依存すると思う
- ・働き方改革が進んで、男女関係なく自由に勤務が組めるようになればもちろん良いと思いますが、今の社会現状からするとまだまだ先のように思います。
- ・働き方改革とはまた別の施策が必要
- ・働き方改革と男女共同参画は一部重なる部分もあるが、どのような影響があるかまだよくわからない。
- ・働く時間は男女で変わらず、育児などを自分達で完結しようと思うと難しい。
- ・日産婦が各施設に宿日直許可を取得するよう要請するというバカみたいな施策を押し進めることを決定した時点で、賢い女性医師は産婦人科から離れていくと思います。
- ・偏った目で見ていて上司がまだたくさんいるので、現状すぐには進まない
- ・労働時間が減ったから男女共同参画が同時に起こるとは思えない。

#### 医員・女性

##### \*\*思う

- ・「長時間働く人が偉い」という風潮がなくなると思うから。
- ・カンファレンスが時間内になり、参加しやすくなったから。
- ・そういう機運があることによる意識改革
- ・そう期待したいので
- ・家事と両立できるから。
- ・強制的に帰宅させられるようになれば、家庭に目を向ける時間が必然的に増えるから。
- ・現在、しきりに言われて、意識されていると思うから。
- ・仕事にオンオフができると養育の分担が実現するため。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・仕事の時間を多く取れない子育て中の女性も参加しやすくなると思う。
- ・子育てをしている医師が働きやすくなることで仕事を割り振りやすくなると思われる
- ・職場全体が定時に帰宅するようになれば、家庭のある女性も定時で帰りやすい
- ・短時間なら働ける女性もいるから
- ・男女ともに自由な時間が増えるから。
- ・男女ともに働き方改革が重要なため。
- ・男女平等に勤務時間に制限がかかるのはどちらの意味でも平等になると考えるため。
- ・男性が家事育児に参加しやすくなるため、分担できる
- ・男性が家庭のことをできない限り、女性の社会進出は不可能だと思う
- ・男性で、家庭で子どもとずっと接したいと考えている方は多いと思います。性別による家事育児負担の不均衡の改善される可能性があると思います。
- ・男性の、業務のない拘束時間が減り、その分時間外や日当直業務を担当できなかった女性の業務時間を増やせると思うから。
- ・男性の家庭内業務への参画
- ・男性の働く時間分を女性が補う必要が出てくるため。
- ・男性も、家庭をかえりみる時間を持てるようになるから
- ・男性も育休を取りやすくなってきた
- ・男性も家族と過ごす時間が増えるのではないかと思う。職場での勤務時間の男女差も減るのではないかと思う。
- ・男性医師の意識改革 男性医師の育児・家事参加による理解の増加
- ・働き方改革でチーム制などが導入されれば、用事があるときに代わりがきく人が増えることで、男女ともに働きやすくなると思う。
- ・夫がもっと早く帰ってきてくれれば、私が当直に行くことができ、子育てをしている女性も当直に参加することができ、「ママさんは当直を免除されるからいいよね。」と後ろ指を指される心配をしなくて良い。そのためには、夫に子供の食事・寝かせつけ・翌朝のお弁当作りが出来るように教育しないといけないが。
- ・夫が家庭進出すれば私も働きやすくなるので
- ・夫が早く仕事を上がれば、家族の時間ができる。
- ・労働環境が変化すれば男女ともに働きやすくなると思う

#### \*\*思わない

- ・“ライフ”の時間が増える事で(一般に)男性の家庭参画が増えたり、“ワーク”に制限が出た分の余剰の仕事をしていなかった(多くの場合)女性が担う事で共同参画が推進されると期待したい反面、実際には、当事者が家庭に参画したいか、仕事・社会に参画できるかは、当事者の意識・意志・能力によるところが大きく、微々たるものの可能性が高いと考えるため。
- ・1人が出来る仕事の量には個人差があるので、格差が減るデメリットもどこかに出てくると思います。やってみないと分かりません。
- ・Dr.joyがよくない、廃止すべき
- ・どう工夫しても女性に育児負担が大きくなる中で男女共同参画を目指すのは無理がある
- ・まだまだ家事育児は女性という認識が、女性の中でも多いから。
- ・医師の業務内容は結局24時間体制で動くものだから
- ・育児などで働けない人はより排除されると思う。
- ・何も直結していない。人の意識が変わらないから。
- ・家事、育児は女性が行うものという暗黙の了解みたいなのがあるから。
- ・家事・育児を女性が担っている現状にまで変化が及ぶとは考えられないから
- ・家事や育児はやはり女性の仕事となるし、やはり女性が早く帰らせてもらっている分、男性は遅くまで残って仕事をしたり当直業務を、してくださっています。今後女性が増えるとなると、今度は育児をしている女性が当直などをしないとイケなくなる未来があります。男女共同参画ならば確かに女性も働かなければなりません、現実として難しいのではないのでしょうか。医療の現場は責任も重く、男女共同参画を進めることも大事かもしれませんが、男性の役割も大きいと思います。
- ・各人の意識が変わらないから。
- ・関連ないと思うから
- ・基本的なこと
- ・共働きの家庭ではどちらかが保育園のお迎えや病気の時の対応をすることになり、その結果急患対応は不可になったり、当直に入れない、など職場に迷惑をかけることがどうしても増え、結果的に仕事を制限するが必要が必ずでてくると考えます。
- ・現在子供のいる共働き家庭では女性が家事、育児の中心になることが多いと思うが、働き方改革にて男性が家庭に費やす時間が増えたとして、家事、育児を積極的に行うかは、その人次第だと思う。女性の社会でのキャリアにおいて、家事、育児に費

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

やす時間は負担の一つだとは思いますが、男女共同参画を進めるためには、働き方改革よりも男女ともに個人の意識付けの方が大事だと思う。

- ・ 現状では夜間業務の負担が独身者や男性に増えるばかりなので
- ・ 個人の意識の問題があるから
- ・ 未だに育児、家事負担は女性の方が多い。医師同士の夫婦も周りに多いが、保育園に入れない、夜みてくれる人がおらず当直には入れないなどで時短、制限勤務になっている人が多い。結果的に独身者や近隣に見てくれる家族がいる人に負担がいくため、不信感が募りギスギスしてしまう。働き方改革で就業時間を制限する以前に働きやすいように保育園やシッターを整備してほしいし、男女平等というなら家庭での役割も平等になるように意識改革が必要。
- ・ 根本的な考え方が変わらないかぎり変わらないと思います。
- ・ 根本的に変化がないと変わらないと思うから。
- ・ 仕事の分担が明確にならない限り、個々人の仕事量は変わらないと思います。
- ・ 時間があっても意識が変わらないと進まない。
- ・ 時短勤務の女性が引け目を感じている状況が変わっているように思えないから
- ・ 時短勤務者の仕事をかわりにやらないもいけないから
- ・ 実際の仕事内容は変化しないから
- ・ 出産や妊娠はどうしても男性は変わらないから
- ・ 出産等での休職・時短勤務は女性が少ない環境ではしにくいのが現状
- ・ 女性が育児家事をするのが当たり前という文化は変わっていない
- ・ 女性が出産をする以上、どうしても業務内容や時間に差が生じてしまうから。
- ・ 女性のみ、月経、妊娠、出産、育児があり、確実に休まないといけな期間がある。そのため、経験症例数の明らかに減少する。働き方改革が行われたとしても、結局女性が休まなければならないことは何一つ変わらず、男性は未だ育児などでほぼ休むことはできないから。
- ・ 女性は肩身が狭いまま
- ・ 育児世代の女性医師は以前よりハンデがある
- ・ 上層部の意識が変わらないと男女共同参画は進まない
- ・ 制度が変わっても意識は人それぞれだから。
- ・ 制度ではなく意識を変えないと共同参画はすすまない
- ・ 男女共同参画に賛同する医師が少ないと感じる。当直免除や時短勤務が実質できない病院もある。
- ・ 男女共同参画は勤務時間の問題ではなく、今まで当たり前だとされてきた価値観の修正や意識改革がなされて初めて進むと思うから。
- ・ 男性ほど女性は体力がなく、ホルモン周期、出産がある。仕事のブランクは常に発展する仕事においてはリスク、本人の不安を生む。そもそも身体が違うので無理。
- ・ 男性医師が育休を簡単に取れる状況にない
- ・ 男性医師は育児や家庭の事情で急に仕事を休むと家庭的であることを評価されるが、同僚の妊婦の医師は妊婦検診で時間休を取ることを非難されていた。女性医師が働きながら妊娠、出産、育児をすることは全く受け入れられていないため
- ・ 男性重視の働き方企画だから無理だと思う。
- ・ 働き方改革と、女性の社会進出とは直接関係ないと思います
- ・ 働き方改革をしたら時短になっても自宅で持ち帰って研究するようになると思うから。その時間は女性は割けず、結局育児を犠牲にすることになると思うから。
- ・ 妊娠出産育児のある女性とそれ以外の人では働き方があまりにも異なり、それに対する理解は依然得られていない。そもそも働き方改革があまり意味がないと思うため、男女共同参画の話はまた更に先の話だと思う。
- ・ 付け焼刃の改革であり根本がかわっていない

#### \*\*わからない

- ・ お互いと周囲の意識の問題だから
- ・ その人が男女共同参画の必要性を重視するかどうかで、かわってくると思います。
- ・ パートナーが協力する気がない
- ・ 医療現場では、家庭との両立が必要な女性に対しては、昔と比べて理解が進んでおり、働きやすくなっていると思う。しかし、勤務医の人数が増えたわけではないので、その分独身世帯の医師に大きな負担を強いられている現状はどうやっても変わらないのでは。
- ・ 家事・育児をするつものない人は何も変わらないから

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 家庭があり日中しか勤務できない人とそうでない人が、時間帯を分けて効率よく働けるのであれば、非常勤の人の需要も増え、子どものいる女性社員も働きやすくなると思われる。
- ・ 業務にカウントされる時間で働き方改革をするのではなく、人員配置やカバー体制まで含めて改革をするのなら改善と思う。そうでなければ実情は変わらないと思う。
- ・ 現在あまり男女差を感じていないから。
- ・ 現時点ではあまり関係がないと思う。もう少し意識が変化しないと難しい。
- ・ 個人や組織の意識改革が必要だと思われるため。
- ・ 個人的には、女性のほうが育児に向いている点が多い気がする。
- ・ 根強い文化があるから
- ・ 仕事をしない時間の仕事を誰が変わるのか、そのために収入が減らない方法を考えられるのか。タスクシフトは言い換えれば収入減の側面もあると思う。
- ・ 施設によって改革内容は様々だから。
- ・ 社会全体で改革して実行していかない限り、誰かに蹴寄せがくるから
- ・ 所得が減るとモチベーションが下がる可能性があるため
- ・ 女性が働きやすい環境が、必ずしも労働時間の削減などとは関係していない(それぞれの事情に応じた多様性のある働き方が必要)と思われるため。
- ・ 女性蔑視は変わらないから
- ・ 職場によると思うため。
- ・ 色々と制度はあっても、男性医師(夫)の働き方を含めて大きく変わらない限り、子育ての母への負担はほとんど変わらず、結局は子どもの環境も考慮すると同じように働くことは難しい。ただし、1 世代前の働く女性やその家族と比べ、自分たちの手で(祖母任せやシッター任せにせず)育てたいという気持ちが私たちの世代には強いことも、大きく影響していると思う。
- ・ 増えては欲しいがしっかりと労働が報酬という形で評価されないと難しいと思うから
- ・ 大きな変化を実感しないから
- ・ 託児所の問題などは変わらないから
- ・ 男女というか、個人個人にそれぞれの適性があるため。
- ・ 男女よりかは子供の有無で差がついたように思います。育児に参加しなくても子供の COVID-19 濃厚接触で欠勤する事が増えており、蹴寄せがどうしても男女問わず独身者へ偏っているように思います
- ・ 男女共同参画には制度と意識両方の変化が必要だと思うので、働き方改革のみでは不十分と思う
- ・ 男性より女性の家事比重が大きくて当たり前の意識や、薄利多売的にならざるを得ない医療制度が変わらないと、トータルでの労働量は変わらないのに既婚女性が仕事をセーブせざるを得ず、その蹴寄せで独身者や既婚男性の仕事負担が増え、そこに軋轢がうまれる構造は根本的には改善しない
- ・ 働き方改革が進むことと、男女共同参画が結びつくのかは疑問
- ・ 働き方改革は進んでも、いまだに男性医師の育休取得や時短勤務は認められにくい。医師夫婦で子育てする場合には妻が常に時短になるのが当然(子育て中の「女医さん」だから時短で働いていいよ、働き方改革だよ、)という風潮がある(夫である男性医師たちはそもそも時短という働き方を考えないで済んでいる)  
上記の状態が変わらないのに、男女共同参画が叫ばれて女性医師が管理職や学会の要職にもつくべきだ、というのは、片手落ちである
- ・ 働く女性にとって必ずしもメリットのみがあるとは限らない
- ・ 妊娠、出産など女性にしかできないことがあり、働き方改革だけでは完全に平等にはならないと思うから
- ・ 配偶者の意識に左右される部分も大きいと思われます
- ・ 物理的な家庭に費やす時間が増えても、各個人の意識によるところが多いから。
- ・ 本当の意味での働き方改革が進めば変わるかもしれない
- ・ 優先的に女性の時間外勤務を減らせば男性の時間外勤務が増えてしまう

#### 医員・回答しない

##### \*\*わからない

- ・ 働き方改革による労働時間の変化が必ずしも男女の職業参加の差異を生じている原因に影響するとは限らないから。

#### 専攻医・男性

##### \*\*思う

- ・ ジェンダーレスにより性差のない仕事ができる

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・システムだった勤務体系になれば働きやすくなり、参加しやすいのではないかと思います。
- ・それぞれに配慮した働き方ができるから。
- ・意識改革が進むから。
- ・育児休暇・産休などの制度を男女問わず使いやすくなってきているのだと思うため。
- ・家事、育児などにさける時間が増える
- ・家事・育児を分担しやすくなる
- ・家事や育児などへの男性の介入
- ・家庭状況で勤務形態の変更がしやすくなる
- ・勤務時間が平等になることでそれぞれの科の時間の制約を考慮する必要がなくなるため。
- ・勤務者を増やす必要があるから。
- ・雇用における男女格差がある程度是正されると思います。
- ・残業を当然と考える働き方が減れば、残業や当直の少ない働き方への妬みや偏見が少なくなるとおもうから。
- ・仕事とプライベートの理解が進むと思うから
- ・時間によって分けられる仕事に関しては男女関係なく参画可能になってきたから
- ・時間外労働の短縮による
- ・時短勤務が普及するから
- ・実際に勤務先では子供がいる女医の割合が増えており、またチームのリーダーとしてふるまえる環境が整い始めているから。
- ・女性が働きやすくなっていること。その分男性に負担がかかっていること。共倒れしなければ進むのでは。
- ・女性と同じくらい男性も働く時間を少なくした方が良い
- ・女性も働きやすくなるため。
- ・女性医師の比率が非常に大きく、いかに復帰してもらうかが重要。平日日勤は女性に任せるべき。
- ・職場の意識が変わる可能性がある。
- ・責任のあるなしにかかわらず、女性にも担うべき役割が増えるから。
- ・男性の勤務時間が減ればその分のカバーも必要であり、融通のきく勤務形態も浸透し、女性も働きやすくなる可能性はあると考える。
- ・男性も休みが取りやすくなるから
- ・定時性が本当に確保され、かつ人員が充足するのであれば、個々人の仕事量は減ることになり、育児に携わるスタッフ(特に女性)の就業時間の短縮につながるので、男女共同参画の推進になると考えるから。
- ・保育園に子供を送ったり迎えに行ったりする時間がどうしても自由にずらせないために男女ともフルタイム勤務の男女共同参画が難しい部分があると考え。働き方改革により予期しない残業や就業時間の調整が可能であれば男女ともに就業しやすくなると思う。
- ・有給取得などがしやすくなるため
- ・労働時間的に女性が働くことが難しい現状と思います。

#### \*\*思わない

- ・サービス残業の形で残るため
- ・むしろ男の負担が増えると思うから。
- ・改革ではどうにもならない
- ・関連が低いため
- ・業務量が変わらないのに労働可能時間だけ減少しても、こなすべき業務が終わらず家庭のことに時間を使えない。
- ・愚問すぎて答える気になれない
- ・結局男子は育休が取りにくいと思う
- ・結局独身男性の負担が増えると思う。
- ・現時点で平均として仕事、家庭での男女の役割自体が大きく変化するとは思わないため
- ・仕事の特異性から、女性は医師になるべきではない
- ・仕事量は変わらないため
- ・時短の医者尻拭いを結局誰かがやらないといけない
- ・就労時間は減少したが、現在の勤務先における就労体系は変化ないから。
- ・女性が出産や育児で休む分、男性がより多く働く必要がある可能性が出てくるから
- ・サービス残業を男性医師が負わされる可能性。
- ・大学病院においては現実的な対策ではない



### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・男女とも育児がネックになるが、懸念される急な休みや時短による同僚への負担を軽減するような方策に直接つながっておらず、これからも育児とは両立しがたい状況は変わらないと思われるため
- ・男女間で変化に違いはないと思うから
- ・男女共同参画社会を実現するために行なっているわけではないから。
- ・働き方改革が進まないため
- ・働き方改革で改善したと思うことが何一つないため。
- ・日本社会の閉鎖性は国民病といってよいレベルであり、あまつさえ閉鎖社会の医療業界において男女共同参画は夢のまた夢である。一体どのくらいの医師が育児休暇を取っているのか！それが現実だ。日本国民全体が、折口信夫の墮落論の如く、各自の国民性、この戦後日本の歩みを痛切に反省するをもって、社会構造のすべてを変革せんとする覚悟が必要と思われるが、現実問題到底難しいのではないだろうか。
- ・平等と対等をはきちがえてる人が多いため教育からかえれないことには変化は望めない
- ・忙しいイメージのある科にはそもそも女性が入局しないので
- ・臨床に必要な仕事量は変わらないから

#### \*\*わからない

- ・そこはまた別の問題があると思うから
- ・そもそも女性が男性のように働くのは医療業界では不可能と考える
- ・まだ改革されてないから
- ・医学部入試差別問題に代表されるように、医療界には古くから性差別的な考え方やシステムが存在しており、男女共同参画のためにはそれらの撤廃が必要があり、働き方改革だけでは不十分と感じるから。
- ・医師は以前男社会であるため
- ・結局、育児や子育てにより休業を必要とする期間は女性の方が長いから。
- ・結局は、量が医療の質を作る部分は大いにあると思う。
- ・産休、育休に関しては関係ないと思うから。
- ・時と場合によります
- ・社会全体の流れを変えるのは難しいから
- ・女性の社会進出と労働時間削減が直接的に結びついているか疑問です。労働時間から攻めるのではなく、休暇制度、職場での役割分担の改革が必要ではないかと感じます。
- ・女性は権利を主張しやすくなるとおもう。男性の権利は主張しにくくなると思う
- ・診療科によると思う。
- ・男女が平等に働ける環境ができるかわからない
- ・男女で家庭での役割が異なるから
- ・当院では改革が未実施のため。
- ・当直できる医師が少なすぎる
- ・当直業務などで一定の男女差は生じる
- ・働き改革と言っても、機械的に勤務時間を増やしたり、決まった期間内に休みを取るようになっているからです。
- ・働き方改革が進んでいるのかわからない
- ・変化を見てもわからない。
- ・予測が難しいと思われま
- ・労働に対する個人の置かれている環境と考え方が異なるので、そもそもこの質問が的外れだと思います。

#### 専攻医・女性

##### \*\*思う

- ・いくつかの科で以前より妊娠出産時の負担は減っているのではないかと感じることもあるため
- ・もともと時間に制約がある女性医師にとっては働き方改革後も労働時間は減らないが、男性医師の労働時間も制限されることで、残業ありきの勤務形態が是正されると思う。
- ・医師夫婦で交互に育休をとる人の例をいくらかみている
- ・一番わかりやすい改革の指針かと思うので、進みやすいのではないかと思う。
- ・家事育児と仕事の両立が可能となるため
- ・各個人に合ったスケジュールを組む事ができるため
- ・古い体質よりは無駄な雑用などのない組織の方がママ女医も働きやすい

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・子育て中でも仕事を継続しやすくなると思うから
- ・女性がより働きやすい環境になると思うから。
- ・進むとは思うが、上司にあたる先生方の意識改革も重要だと思う。
- ・性別を問わず勤務を継続するには、プライベートの確保もある程度は必要だから。
- ・全員が残業が必要なくなれば、父親も家庭のことに参加しやすくなる
- ・全員等しく休みが取れるため
- ・男女関係なく休みやすくなることで、家事育児の負担が男女平等にできる。結果、女性がより働きやすくなると思うから。
- ・男性が育児に参加しやすくなるから
- ・男性にも仕事以外のことをする余裕が生まれるため
- ・男性の業務時間が減ることにより、家事育児はしやすくなると思う
- ・男性の自由時間が増える
- ・男性も家事育児に参加しやすくなるため
- ・男性も家事育児へ参加する時間が確保される
- ・男性医師も帰宅時間が早まり、家事、育児に割ける時間を増やせることにつながるため。

#### \*\*思わない

- ・「男女平等」というのは建前で、実際は女性の負担が増えているだけ
- ・そもそも日本の文化的に理想的な男女共同参画は難しいと思う。医者はとくに根強く女性は家事育児を行う考えが強く、男性医者で育休をとる方はほとんどいないと思う。
- ・もっと根強い価値観の問題だから
- ・医療現場の状況は変わらないと思います。
- ・育児で当直回数に制限等があると、わがままを言っているように扱われる
- ・育児に対する男女の意識が変わらない限りは変化しないと思う。また女性のみがキャリアをストップせざるを得ない状況では職場環境が劇的に変わることはないだろう。
- ・関係がないと思う
- ・給与が減るだけな気がする
- ・形式上の労働時間を減らすだけで、実態はあまり変わらないと思うから。
- ・結局のところ、家事育児は女性が担うことが多い。働き方改革が進んだとしても日々業務に追われている相手を見ているととても子供を保育園に迎えに行く時間に仕事が終わると思えない。また朝も、保育園に送れる時間より先に業務がスタートするため頼めない。男性が当直などを担ってくださっている、それで医療の現場はある程度成り立っているのではと思う。
- ・結局子育てがあるから業務が制限されます。当直明けは 8 時半帰宅を厳守できないと思います。守らない施設には罰則を設けるべきです。当直明けは帰宅を謳いながら、結局あなあと午前中あるいは午後まで働らかされている病院が大半です。
- ・結局女性の方が休むことが多い。
- ・現在までに勤務状況の変化がないため。
- ・現実的には無理がある
- ・個人の意識の問題
- ・産休・育休でキャリアは遅れる
- ・産休・育休への偏見は、働き方改革では改善しない。女性は雇用される時点で差別されている。
- ・残業は変わらずあると思うから
- ・子育てで女医が悪口を言われる環境は変わらないから。働き方改革も進むと思えない。
- ・子供がいる女性に対する社会施設的なサポートが少なすぎる
- ・子供を産む女性は働きやすくなると思うため
- ・女性の意識改革も進んでないし、意識を改革しても女性が上手に働ける職場環境が構築されていないから
- ・常勤医の時間外勤務が増え男性医師に頼る働き方になると思う
- ・進むといいと思う。残念ながら男性医師が早く帰って家事をするイメージができないが…
- ・制度上はよくても、全体としての業務量が多い中、女性のライブイベントで業務量をセーブしてもらうので、人間関係や環境的な部分で結果的に所属しづらくなる傾向がある。
- ・男社会には変わらないから
- ・男女は関係なさそう
- ・男性医師は女性が子育てをすることを考えている人が多いため、働き方改革をしても女性が子育てや家事をすることに変わりはないと思う。男性医師の育児休暇取得率をあげるなどの具体的な策が必要。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・働き手が少なくなるだけだと思います。
- ・働き方改革だけでは不十分。
- ・働き方改革で女性の復帰しやすい、男性の育休が了承される職場が基本にならないと何も改善しないが、そこまで改善されなさそうだから
- ・働き方改革は男女の性差の問題ではなく、医療現場の問題解決の一助にはなる。男女差という面では出産育児に伴う休暇への認識などが肝要か。
- ・働き方改革自体進まないから
- ・内容を理解していない人が多いから
- ・日々の就業時間は短縮されるかもだか男性の育休取得がしやすくなることは別に思える
- ・表面上、改革されたようにみえても、個々人の考え方は簡単には変わらないので、男尊女卑、女性が家事・育児をするべき、男性が育休をとるのは違う、などの考え方が根底にあって、女性にポジションをあたえないなど、女性が社会で働きにくいことには変わらない。
- ・余暇が増えたとして、研究等が増えるため、家庭への男女の参画が増えるわけではない。

#### \*\*わからない

- ・そもそも男女差がある職場で転勤も多いので、何をもちて男女共同参画が進んでいると評価できるかよくわからないため。
- ・どうしても家事や育児など女性は労働時間に制限が出てしまうため、男女問わず勤務の duty が減れば女性も両立しやすくなると思います。ただ医師の仕事のスキルアップは経験によるところも多く、そこまで単純ではないかもしれません。
- ・もともと共同参画の意識の高い科だと思うから
- ・以前よりも能力での評価がされやすい社会にはなっていると思うが、周囲を見ると育児や子育ては女性が担っていることが多い。制度は変革しているが、実生活に反映されるのは難しいのではと思う。
- ・以前より育休をとる男性は増えているが依然として子育てや介護は女性側が行うことが多いから
- ・医師全体の働き方が改善されることで、男女共同参画についてもより公平に、より配慮された体制を築けるかもしれない。ただ、医師の働き方の問題と比べると、男女共同参画は比較的整備されてきており、それほど問題に感じていない。
- ・家の事情などさまざまあるので。職場が女性を受け入れないと変わらない。
- ・関係ないように思う
- ・技術職の医師はどうしても妊娠出産のブランクが出る
- ・具体的に予想できないため
- ・現在女性であるという理由で職場・プライベートともに制限を感じたことがない
- ・現場の前提を変えていかないと難しいと感じる部分がある。
- ・考えたことがないです。
- ・根本的なところが変わらないと必ずしも良い方向に行くかは分からないと思う
- ・出産子育てによる女性の時間的・空間的制約を行政がどれだけサポートできるかにかかわってくると思う
- ・女性が休むと男性の負担が増える
- ・女性医師がキャリア形成に力を入れるかどうかは、結局は本人の価値観次第であると思う。働き方改革をしたからといって、元々キャリア形成に興味がない医師の考えが変わるとは思えない。
- ・上に立つ人達の意識が変わらなければ変化しないと思う。有給を与えれば祝日に出勤させてもいいと思っていたり。その日のベビーシッター手配の手間や費用は当然補填されない上に、有給も気軽に取得できない。
- ・職場によりけりだと思う
- ・男性が本当に休めて、女性がより働けるようになるかは分からない。
- ・妊娠・出産・育児に対する福祉の充実も必要だと思うため。
- ・配偶者に家事をする意思がないから
- ・比較的男女共同参画は進んでいる職種と思うため

#### 臨床研修医・男性

##### \*\*思う

- ・育児を共にできる
- ・家事に使える時間が増えるから
- ・勤務時間のシフト化が進み、働く場所が増えるため。
- ・時短勤務に対する罪悪感や周りの負担感の軽減が見込めるため
- ・女性の働き方が変わると思います

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・男性も家事に参加できるから

#### \*\*思わない

- ・マンパワーが足りていない
- ・医学部入学時点の問題なため
- ・今の働き方で男女問わず働けるのが良いと思います。
- ・社会の問題だと感じるから。
- ・女性が出産・育児に時間を割く分、当直やオンコールなど拘束時間の長い業務は男性が担当するから。
- ・働き方改革が行われる前から男女共同参画が成されていないなら、改革が行われても共同参画は進まないと思われる。
- ・労働時間と男女共同参画は別問題

#### \*\*わからない

- ・改革を進めたからといって綻びは必ず生まれると思うから
- ・実際にどのように変化するか検討がつかないから
- ・就業時間の規制や、勤務形態の見直しも重要だが、十分な給与が得られないために外勤したり、当直業務を行っていると思われるから。
- ・出産は女性しかできないから。
- ・男女間の差は不変と考えられるため
- ・万人に働きやすい環境になれば、体力面などの理由で男性に限られていた職の門戸が女性に開かれることになると思う。ただ、女性が大多数を占める仕事に男性の割合が増えることはやや想像しにくく、ほとんどの職場では男女比の大きな変化は見られないかもしれない。

### 臨床研修医・女性

#### \*\*思う

- ・育児など時間に追われることが少なくなるから。
- ・家事に時間を当てられる。
- ・業務時間が短くなれば女性が勤務を続けることができるため。
- ・女性ならではの仕事需要もあるし、仕事に重点を置いている人も増えているから

#### \*\*思わない

- ・今のところ働き方改革で男女共同参画について何も変化がない。
- ・女性には妊娠・出産というどうやっても働けない時期がある。それを男性育休という形で平等にしようというのは男性にも社会にも働き手を失う点でメリットがないと思う。もっとみんなのモチベーションが上がり、子供を産みたいし、産んでも働きたいと思えるような仕組みを作るべきと思う。
- ・男女共同参画がすすむのではなく、常勤先での収入減を補うためにやむを得ず働く女性が増えるだけだと思うため。

#### \*\*わからない

- ・あまり関係ないように感じる
- ・休むことによる、休んだ者の罪悪感という概念が残ってしまっている状態であると思います。その中で、働き方改革が進んだとしても、復帰後にベストパフォーマンスはとれないと思うから。

### その他の医師・男性

#### \*\*思う

- ・そのままの意味で
- ・医療の職場だけかわからないが、明らかに夫婦がフルタイムで働くことを想定していない環境となっているため。
- ・家庭と仕事の両立が取れる可能性がある。
- ・時間外が減ることで育児をしている医師も働きやすくなる
- ・社会の理解が進んでいる
- ・女性のチャンスがふえる
- ・男女関係なく、家事も仕事もできるため
- ・男性配偶者の家事時間の増加や学校行事への参加などにより女性配偶者の負担が軽減するから。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・働き方の多様性が社会的に容認されれば、女性医師も参画しやすくなるため。

#### \*\*思わない

- ・あまり関係はないと思う。
- ・現実問題として女性は当直ができなかったり、育休に入るなどでなかなか男性と同じ働き方はできない。雇う側が配慮する必要があるが、ある程度の区別は生じてしまうと思う。
- ・社会のシステムの問題あり
- ・出産や育児は、現在も女性が主体のため、専門医をとるのがむずかしい。
- ・男女で平等に働き方改革が進んでいる訳ではないため
- ・男女に関わらず働き方改革は働かない人にとってのみ改善となり、働く人にとっては改悪でしかありません。男女共同参画については男女の違いではなく、それぞれの勤務時間や仕事内容に比例して影響を受けると思います。
- ・働き方改革が進むと業務時間と業務量の均衡が崩壊し業務環境が悪化することで男女共同参画を目指す余裕が無くなるのではないかと懸念
- ・独身男性が仕事を押し付けられることは変わらない 永久に
- ・妊娠などによる休みのしわ寄せを男性、未婚女性が支えている現状に不満を持つひとが多い。
- ・文化や精神性の問題が大きいから
- ・話が別

#### \*\*わからない

- ・人々の意識が変わることが男女の共同参画につながると思うので、そのためには文化的な部分から変わらなければいけない。働き方改革で時間の余裕は出来るかもしれないが、意識・文化までは、そう簡単には変わらないと思われるため。
- ・想像つかない
- ・男女ともに自分たちのためには働くでしょうが、社会のために働くことはないのでは。
- ・働き方改革が進むことと、男女共同参画が進むこととは、必ずしも相関しないから。
- ・働き方改革が進むこととの関連が不明。
- ・働き方改革の目的に男女共同参画が含まれているのか、個人的には実感が湧かない。

### その他の医師・女性

#### \*\*思う

- ・パートナーの当直の時間が減る
- ・意識づけできるから
- ・現在の「女性(母親)だから働く時間が少ない」という前提が崩れるから。
- ・全ての医師に、最低限の文化的な生活が可能となれば、男女含め産休や育休等のある程度の取得が物理的に可能になってくると思うので。また、時短などの復帰も容易になりやすいと思うので。
- ・男女の家事育児分担がしやすくなるから
- ・男女共にワークライフバランスが整うから
- ・男性が育児に参加して当然という雰囲気を作れる。
- ・男性が家で家事育児介護をする時間がなければ女性は仕事できないため。
- ・男性が早く帰ることで女性が働きやすくなる。
- ・男性は時間外労働により今のポジションを獲得しているが、時間外労働が無くなったら、女性も男性と同じ土俵に立てると思う。
- ・働き方が良くなることで、男性も育休をとることができる環境となり、女性の負担が減ると予想されるから。
- ・夫の時間外労働が減れば、自分ももう少し意欲的に働けると思うから。

#### \*\*思わない

- ・意味がない
- ・家事が大変で他のフルで働く医師ほどは到底仕事ができない。
- ・家事育児は女性がするという根強い社会観念のため。子育てに対する周りの理解もほぼない。
- ・関連がないように思います。
- ・子育てしながらの勤務が大変な状況は変わらなそう
- ・自宅で仕事をするから
- ・女性は時短が多く、その分をどこかで男性やフルの女性がカバーしているので同じ

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・ 常勤で働こうと思うと夜まで見てくれる保育園がなかなかないため、子供の保育料が高くなる。また、麻酔科専門医の維持には週 3 同一施設という縛りもあり、女性医師のキャリアアップ、スキル維持の足かせとなっているように感じる。男性医師と同じように働ける環境整備をちゃんとしてほしい。
- ・ 診療外の業務は増える一方だから
- ・ 男は忘れ者だから、家事をしないことには変わらない。
- ・ 男性の育児への理解、協力は広まっているが、現実的にはまだ女性が日々の育児を担うために仕事をセーブすることが、医師の世界ではまだ一般的であるように感じるため。
- ・ 働き方改革と男女共同参画は別のことだと思うから
- ・ 働き方改革自体が、男女差を埋める目的ではない。根本の問題は働く時間ではない。
- ・ 独身女医にしわ寄せがくる。
- ・ 病院の働き方改革だけでなく、女性が家事育児介護等を担っている現状が変わらないと、結局仕事の分担などは現状と変わらないと思う。
- ・ 別問題だと思う

#### \*\*わからない

- ・ 家事労働は日本では根底から女がやるものという固定観念がある
- ・ 個人の考えの変化まで導けるかは分からないので。
- ・ 個別の事情が多く一概にいけない
- ・ 診療科の偏り
- ・ 制度を変えても周囲の意識変革が追い付いていないから
- ・ 働き方改革と合わせて、育児サポートの両面が必要と思うから。

#### その他の医師・回答しない

##### \*\*思わない

- ・ 働き方改革の目的が超高齢化社会に対する対策であり、男女共同参画の目的が見いだせないから。

#### その他(特任研究員など)・男性

##### \*\*思う

- ・ 時間が作れるから
- ・ 男女共同参画には、男性の働き改革も必須だと考えるから
- ・ 男性の家事育児参加

##### \*\*思わない

- ・ 結局男性が無理して業務を回します
- ・ 結果として業務が増えれば男性医師が主に対応することになる。タイムカードの見かけ上は男女の仕事の平均化はされるが、実状は異なるだろう。
- ・ 男女で同じ業務ができるわけではない。また分担する人員の増加やタスクシフトができない限り、1 人あたりの業務軽減は困難。
- ・ 働き方改革と男女の問題は本質的な部分では別問題であるため。育児をする女性が優遇される傾向にあり、同じ女性からも妬まれるケースが少なくない。
- ・ 保守層の偏見の為
- ・ 論点が異なると思います。

##### \*\*わからない

- ・ 実質の仕事量自体に変化があるわけではないので、それほど有効手とは思えない

#### その他(特任研究員など)・女性

##### \*\*思う

- ・ 意識改革によって、女性は家事・育児を主にするという認識をなくし、仕事も家での生活も男女関係なく実施していけると思う
- ・ 雇用の率とか変わるとは思うから
- ・ 身近なところでは、育児休暇を男性も取りやすい環境になってきたと実感している。長い目で見れば、女性だから家事育児当たり前の考え方が改められると嬉しい。

### 38. 働き方改革が進むことにより、男女共同参画は進むと思いますか【記述】

- ・進まなければ改革ではないと思うから
- ・不要な残業が減り、家での時間が増えるため。
- ・平等になる

#### \*\*思わない

- ・いまだに、女性の不妊治療や産休育休に対して色々言ったり、妊娠したら医局を辞めろとはっきりおっしゃる上司も多々いらっしゃいますので、世代的にもこういう考え方を変えていただくのはかなり難しい事ですし、あと50年から100年は日本の本質は何も変わらないと思います。
- ・可処分時間の問題ではないから
- ・古い考え方に固執している方が多い印象だから
- ・社会において、女性は妊娠、出産、育児などあるので共同参画と云うのは難しいと思う
- ・女性がすれば良い、それを当たり前と思っている風潮がなくなるから。
- ・上司による
- ・男女共同参画と言われて何年も経過しているが、身に染みて改革されたと感じたことがないから。
- ・男女共同参画は、日本人の意識や文化の問題だと思うから、働き方改革を進めたとしても根本の解決にはなっていない気がするから。
- ・男女共同参画はもはや「時代遅れ」と感じる。もっとSDGsを取り入れた「社会共同参画」的なことを推進してほしい
- ・男尊女卑の考えは日本人に深く根付いており変化しないのでそれが変わらない限り何も変わらない。
- ・働きながら、家事・育児もある程度こなすことにそもそもムリがあると思う

#### \*\*わからない

- ・そもそも多数の女性が、男性と同等に働くことを望んでおらず、負担の少ない業務を好むため。また、業務に少し不都合があると、配偶者により生計が維持されているので、家計を負担しない女性たちは、簡単に職をやめてしまうから。
- ・意識改革がすすむかどうか
- ・意識改革ができていない
- ・現時点ではわからないとしか言いようがない
- ・個人の意欲による
- ・今後の働き方改革の内容によるため
- ・短時間職員には反映されない
- ・働き方改革と男女共同参画が進むためには問題点としてオーバーラップする部分が限られているから
- ・副業等の推進になるだけではとも思えるので

#### その他(特任研究員など)・回答しない

##### \*\*わからない

- ・現状よりマシになるかもしれないが、依然として難しそうであるので判断がつかないから